

平成16年度（第48回）
岩手県教育研究発表会発表資料

現代的教育課題

**国際理解教育において積極的にコミュニケーションを
図ろうとする児童を育てる指導の進め方に関する研究**
- 交流活動を位置付けた英語活動をとおして -

平成17年2月9日
長期研修生
所属校 盛岡市立高松小学校
堀 合 り か

<目次>

研究目的	1
研究仮説	1
研究の内容と方法	1
1 研究の内容	1
2 研究の方法	2
3 指導実践の対象	2
研究結果の分析と考察	2
1 国際理解教育において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導の進め方に関する基本構想	2
(1) 国際理解教育において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てることについての基本的な考え方	2
(2) 交流活動を位置付けた英語活動の意義	3
(3) 交流活動を位置付けた英語活動における指導の進め方	4
(4) 国際理解教育において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導の進め方に関する基本構想図	4
2 交流活動を位置付けた英語活動についての実態調査及び調査結果の分析と考察	6
(1) 実態調査の計画	6
(2) 調査結果の分析と考察	6
(3) 配慮事項	7
3 交流活動を位置付けた英語活動についての手だての試案	7
(1) 手だての試案作成の観点	7
(2) 交流活動を位置付けた英語活動についての手だての試案	8
(3) 検証計画	8
4 指導実践	10
(1) 手だての試案に基づく指導計画	10
(2) 手だての試案に基づく指導実践の概要	12
5 実践結果の分析と考察	15
(1) コミュニケーションを図ろうとする意欲の変容状況(全体)	15
(2) 抽出児の意欲の変容状況	17
6 国際理解教育において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導の進め方に関する研究のまとめ	19
(1) 成果	19
(2) 課題	19
研究のまとめと今後の課題	19
1 研究のまとめ	19
2 今後の課題	20

<おわりに>

【参考文献】

【補充資料】

研究目的

国際理解教育においては、他の民族や国家を理解し、「国際人」として世界の人々と共生していく態度や能力を育てることが求められている。国際理解教育の一環として行われる英語活動においては異文化理解の視点をもちながら、相手と積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度の育成が重要である。

しかし、実態をみると、簡単な英語や外国の生活・文化にふれ、親しんではいるものの、異文化をもつ人々との交流場面において、自分から進んで話しかけたり、応答したりするなど積極的に相手とかかわり、コミュニケーションを図ろうとする児童は少ない。それは、児童が英語をコミュニケーションツールとして使い、相手と交流する経験が少ないこと、教師が英語活動と交流活動のつながりをもたせた活動をさせてこなかったことが要因と考える。

このような状況を改善していくためには、英語活動に交流活動を位置付けて、コミュニケーションを図る動機付けを行ったり、英語を使ってコミュニケーションを図ることのおもしろさや楽しさを実感させたりする指導が必要であると考えられる。

そこで、この研究は、国際理解教育において、交流活動を位置付けた英語活動をとおして、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導の進め方を明らかにし、国際理解教育における指導の改善に役立てようとするものである。

研究仮説

国際理解教育において、英語活動に「出会う交流」、「知り合う交流」、「共に活動する交流」を位置付け、コミュニケーションの動機付けをし、英語を使ってコミュニケーションを図ることのおもしろさや楽しさを実感させれば、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てることができるであろう。

研究の内容と方法

1 研究の内容

- (1) 国際理解教育において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導の進め方に関する基本構想の立案
国際理解教育において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導の進め方に関する基本的な考え方をまとめ、交流活動を位置付けた英語活動の基本構想を立案する。
- (2) 交流活動を位置付けた英語活動についての実態調査及び調査結果の分析と考察
基本構想に基づき、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導の進め方にかかわる児童の実態について分析・考察し、手だての試案の作成に役立てる。
- (3) 交流活動を位置付けた英語活動についての手だての試案の作成
基本構想及び実態調査の結果とその考察に基づき、交流活動を位置付けた英語活動についての手だての試案を作成する。
- (4) 指導実践
手だての試案に基づいて、交流活動を位置付けた英語活動の指導実践を行う。
- (5) 実践結果の分析と考察
検証計画に基づいて指導実践の結果を分析し、国際理解教育において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導の進め方について考察する。
- (6) 国際理解教育において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導の進め方に関する研究のまとめ
指導実践に基づいた実践結果から国際理解教育において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導の進め方に関する研究のまとめをする。

2 研究の方法

(1) 文献法

基本構想の立案に当たり、先行研究及び文献等により、国際理解教育において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導の進め方についての検討を行い、基本的な考え方をおさえる。

(2) 質問紙法

自作の質問紙により、国際理解教育において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導の進め方に関する実態及び指導実践をとおしての児童の変容について調査する。

(3) 指導実践

手だての試案の妥当性を確かめるため、交流活動を位置付けた英語活動の指導実践を行う。

3 指導実践の対象

盛岡市立高松小学校 第5学年 1学級（男子19名 女子16名 計35名）

研究結果の分析と考察

1 国際理解教育において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導の進め方に関する基本構想

(1) 国際理解教育において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てることについての基本的な考え方

国際化・情報化が進展するに伴い、国際社会の中で異文化をもつ人々と相互理解し、尊重し合いながら自己表現していく日本人を育成することが求められている。そのために国際理解教育においては、積極的に相手とかがわり、理解すると同時に、自分の思いを表現していこうとする児童、すなわち積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育成していくことが必要である。

「コミュニケーション」とは「お互いに意志・感情・思考などを伝え合うこと」である。伝え合いは、話者の言語運用能力のみではなく、心理的側面に支えられると考える。言語運用能力を身に付けていても、「相手とかがわり合いたい」「相手の伝えようとするを分かりたい」「自分のことを相手に伝えたい」という気持ちがなければ、伝え合いは成立しない。したがって、伝え合いの基盤は、コミュニケーションを図ろうとする気持ちであり、コミュニケーションへの意欲であると考え。そこで、本研究ではコミュニケーションを図ろうとする意欲に着目し、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする」ことを「コミュニケーションを図ろうとする意欲の高まり」ととらえる。

本研究では「コミュニケーションを図ろうとする意欲」の構成要素を「興味・関心」「自信」「満足感」の三つととらえ、研究を進めることとする。それぞれの意味内容は【表1】に示したとおりである。

児童は異文化をもつ人々と出会うことで、相手への「興味・関心」をもつ。この「興味・関心」が高まることによって、「相手のことを分かりたい」「自分のことを伝えたい」という願いが生まれると考える。

【表1】コミュニケーションを図ろうとする意欲の構成要素

構成要素	内 容
興味・関心	相手への興味・関心、伝え合いへの期待
自 信	相手との意志疎通を図ることができそうだという自信、見通し
満 足 感	相手との意志疎通によって得られる満足感、やりがい

異文化をもつ人々への「興味・関心」が高まっても、児童は異文化をもつ人々とのコミュニケーションに少なからず不安をもっている。その不安とは、未知のものに対する不安であったり、相手との意志疎通が図れるかという不安であったりする。しかし、異文化をもつ人々と交流する過程で、相手のことを少しずつ理解するにつれ、相手への親しみを感じるようになる。また、共に活動する中で、感情を共有する体験によって、コミュニケーションへの不安が和らぎ、「相手の思いが分かるかも」「自分の思いが分かってもらえるかも」という見通しができ、コミュニケーションへの「自信」を感じるようになる。

児童は異文化をもつ人々への「興味・関心」に心を動かされ、コミュニケーションへの「自信」に後押しされながら、異文化をもつ人々と交流し、コミュニケーションによる意志疎通が図られたとき、「相手や相手の言っていることが分かった」「自分や自分の言っていることが分かってもらえた」という喜びを感じる。この喜びは、「満足感」として、コミュニケーションへの意欲を高める。

相手との意志疎通によって得られた「満足感」は、「もっと相手を知りたい、分かりたい」というさらなる「興味・関心」を高め、「伝え合いができそうだ」という「自信」を高める。この繰り返しによって「コミュニケーションを図ろうとする意欲」が高まっていくと考える。

よって、本研究においては、国際理解教育において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を「相手への興味・関心をいただき、伝え合いに自信と喜びを感じながら、かかわろうとする意欲を高める児童」ととらえる。

(2) 交流活動を位置付けた英語活動の意義

本研究において「交流活動」とは「異文化をもつ人々との交流」のこととし、「異文化をもつ人々」とは、日本とは文化の異なる国で生まれ育ち、英語をコミュニケーションのツールとして使う人々のことととらえる。また、「交流活動を位置付けた英語活動」とは、英語活動の中に異文化をもつ人々との交流活動を組み入れ、交流のための英語の表現に親しむこと、そして、その表現を使って意志疎通を図る体験をすることを目的に単元構成をした英語活動のことととらえる。

児童はこれまで、英語活動に取り組み、英語や外国の生活・文化にふれ、親しんできた。しかし、英語を使って自ら話しかけたり、応答したりするところまで至っていない。そこで、英語活動に交流活動を組み入れ、異文化をもつ人々への興味・関心をもたせ、英語をコミュニケーションのツールとして使う活動を組み入れていく。

交流は異文化をもつ相手と出会い、直接ふれあう体験である。児童は相手との「出会い」によって、相手への興味・関心を抱く。直接ふれあうことで相手への親しみを感じながら、「相手のことを分かりたい」「自分のことを伝えたい」という願いをもつ。この願いが異文化をもつ人々とのコミュニケーションへの動機付けとなっていくと考える。

また、異文化をもつ人々との交流の中で、英語や動作・表情などを用いて、自分の思いを自分なりに表現する体験は、コミュニケーションのツールとしての英語を意識させたり、「相手の思いが分かった」「自分の思いが分かってもらえた」というコミュニケーションを図ることのおもしろさや楽しさを実感させたりすることができると思う。

以上のことから、交流活動を位置付け、交流を目的とした英語に親しむ活動は、コミュニケーションの動機付けを図り、英語を実際に使ってコミュニケーションを図ることのおもしろさや楽しさの実感をさせることとなり、コミュニケーションを図ろうとする意欲を高め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる上で意義のあることと考える。

(3) 交流活動を位置付けた英語活動における指導の進め方

ア オリエンテーションについて

オリエンテーションでは単元の見通しをもたせるために、異文化をもつ人々と交流しながら英語活動を進めることを知らせる。また異文化をもつ人やその人との交流に対して、興味・関心をもたせるために、交流する異文化をもつ人々のビデオレターを視聴させる。

イ 「出会う交流」について

この交流では、異文化をもつ人々と出合わせ、直接ふれあわせる。その際、異文化をもつ人々の自己紹介を聞いたり、ゲームをしたり、歌を歌ったりする活動を行い、児童に「もっと相手を知りたい」「もっと仲良くなりたい」というコミュニケーションへの願いをもたせ、コミュニケーションのツールとしての英語の必要性にも気付かせる。

ウ 英語に親しむ活動 について

この活動では、「出会う交流」で芽生えた興味・関心を生かして、互いに知り合うための英語の表現を取り上げ親しませる。その際、一対一のコミュニケーションを組み入れたゲームなどによって表現に自然に慣れ親しませる。また、コミュニケーションをつなぐ表現のあることや、コミュニケーションの手段としての動作・表情にも気付かせる。

エ 「知り合う交流」について

この交流では、異文化をもつ人に児童が聞きたいことを尋ね、伝えたいことを伝える活動を行う。互いの理解を深めるために、交流相手を一人に絞り、少人数のグループで交流させる。グループごとに、実際に英語を使ってコミュニケーションを図る体験をし、意志疎通の楽しさを実感させるとともに、「もっと異文化をもつ人々と仲良くなりたい」「何か一緒にやってみよう」という願いを膨らませ、新たな活動への意欲付けを図る。

オ 英語に親しむ活動 について

この活動では、「知り合う交流」をとおして膨らんだ活動への願いをもとに、「共に活動する交流」において、児童が計画した活動を進める上で必要な英語の表現を取り上げ親しませる。また、相手の意志を確認するなどコミュニケーションに必要な表現にも親しませ、言葉で表現できない部分は、動作や表情など、自分なりに表現を工夫する必要性にも気付かせる。

カ 「共に活動する交流」について

この交流では、グループごとに「校舎を探検する」「互いに教え合う」など、異文化をもつ人と共通の目的をもって、共に活動する。これらの活動によって、コミュニケーションの連続や継続が必要なことから、動作や表情などを使って自分なりに表現しあうことのおもしろさや楽しさを実感させる。

キ まとめについて

まとめでは単元全体をふり返り、「異文化をもつ人々と仲良しになれたか」について考えさせることで、コミュニケーションを図ることの大切さや価値に気付かせ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めさせる。

(4) 国際理解教育において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導の進め方に関する基本構想図

国際理解教育において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導の進め方に関して、次頁【図1】のように基本構想図を作成した。

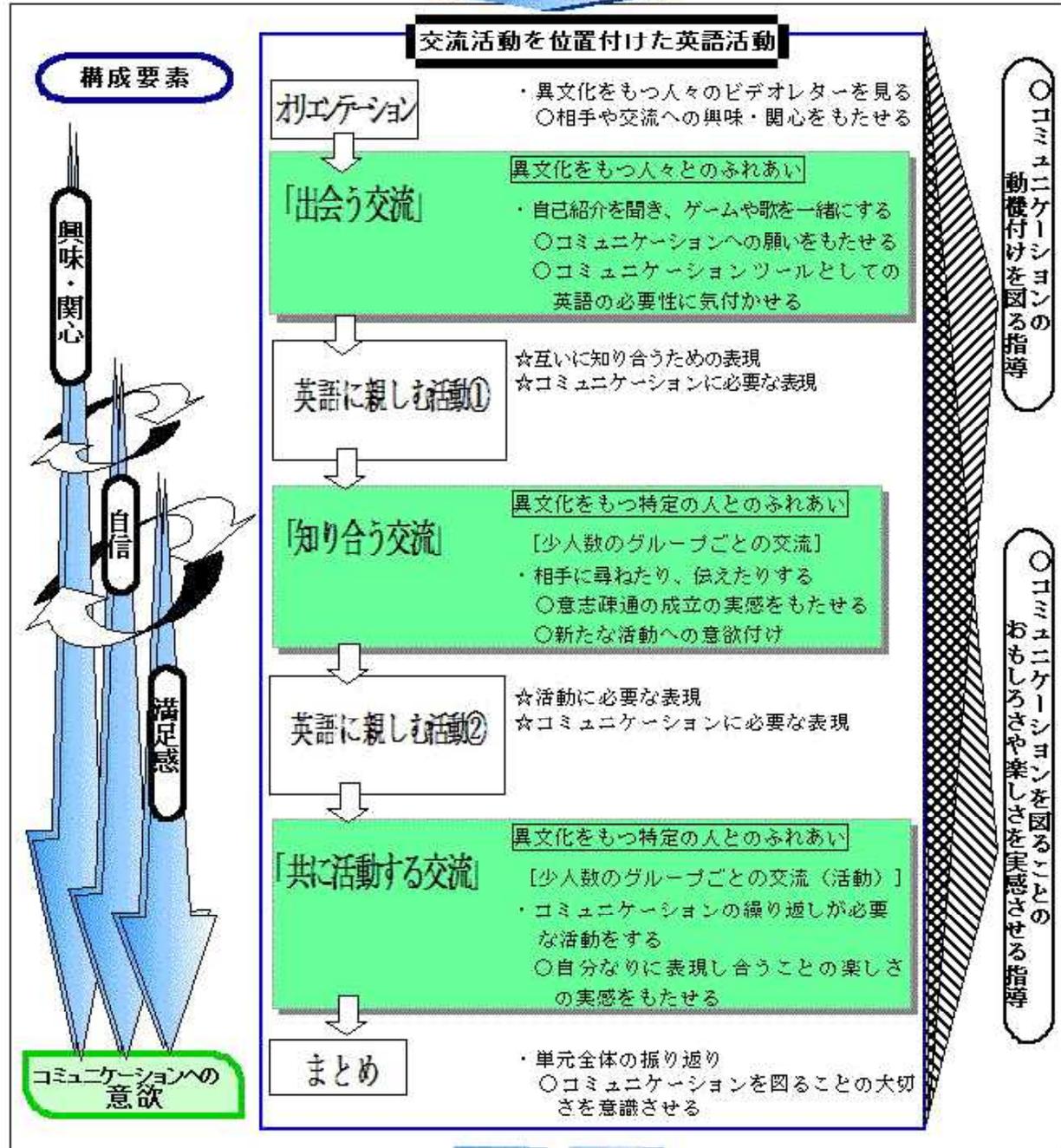
児童の実態

自分から進んで話しかけたり、応答したりするなど積極的に相手とかかわり、コミュニケーションを図ろうとしない。

英語をコミュニケーションツールとして使い、相手と交流する経験が少ない。

指導の実態

英語活動と交流活動のつながりをもたせた活動をさせていない。



積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童

相手への興味・関心をいだき、伝え合いに自信と喜びを感じながら、かかわろうとする意欲を高める児童

【図1】国際理解教育において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導の進め方に関する基本構想図

2 交流活動を位置付けた英語活動についての実態調査及び調査結果の分析と考察

(1) 実態調査の計画

次のような目的と内容で調査問題を作成し、7月15日(木)に調査を実施した。

ア 調査の目的

この調査の目的は、調査対象となる第5学年児童の異文化をもつ人々との交流活動と英語活動に対する意識の実態を把握し、「交流活動を位置付けた英語活動」を取り入れた国際理解教育において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導の進め方にかかわる手だての試案作成に必要な資料を得ることである。

イ 調査の対象

盛岡市立高松小学校 第5学年1学級(男子19名 女子16名 計35名)

ウ 調査の内容

(ア) 英語活動に対する意識についての実態

(イ) 異文化をもつ人々との交流活動に対する意識についての実態

(ウ) ふり返りに対する意識の実態

実態調査の具体的な観点と設問内容は【表2】のとおりである。(調査紙は【補充資料1】参照)

【表2】実態調査の具体的な観点と設問内容

調査の観点	設問番号	設問内容	手だてへの生かし方
英語活動に対する意識の実態	1(1)	英語活動の時間が楽しみか	・英語活動に抵抗感のある児童への支援の工夫をする ・活動内容の工夫をする
	(2)	楽しみと答えた理由	
	(3)	楽しみではないと答えた理由	
異文化をもつ人々との交流活動に対する意識の実態	2(1)	外国の人と交流することは楽しみか	・実態をもとに、異文化をもつ人々との交流活動に抵抗感のある児童への支援の工夫をする ・活動内容の工夫をする
	(2)	楽しみと答えた理由	
	(3)	楽しみではないと答えた理由	
ふり返りに対する意識の実態	3(1)	授業の終わりに、学習についてふり返るとき、文章で書くことを難しいと感じることがあるか	・ふり返りの方法を配慮する
	(2)	感じると答えた理由	

(2) 調査結果の分析と考察

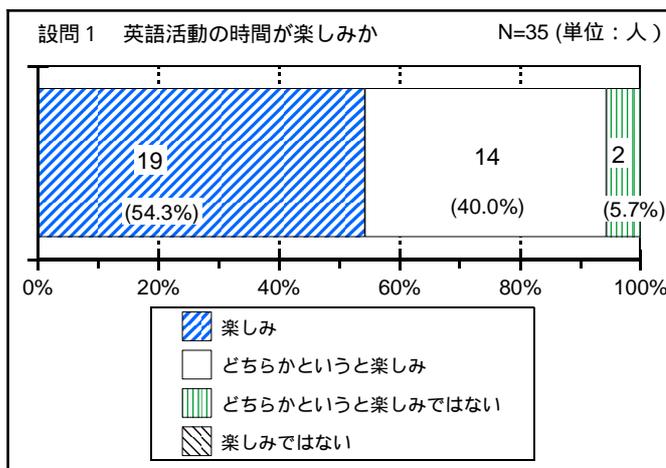
ア 英語活動に対する意識についての実態

【図2】は英語活動に対する意識について、調査した結果をまとめたものである。

【図2】に示したように、英語活動の時間について90%以上の児童が「楽しみ」「どちらかという楽しみ」と答えている。このことから、大部分の児童は英語活動に対して抵抗感がないことがうかがわれる。しかし、「楽しみではない」と答えた児童はいないが、「どちらかという楽しみではない」と英語活動に対して抵抗感をもっている児童が2名いる。

その理由としては「英語を覚えるのが難しい」「英語はあまり好きではない」「英語はよく分からない」を挙げている。

また、理由の中に「外国の人に話しかけられたら分からないから」と英語活動での異文化をもつ人との交流に対して不安感を挙げた児童がいた。



【図2】英語活動に対する意識の実態

イ 異文化をもつ人々との交流活動に対する意識の実態

【図3】は異文化をもつ人々との交流活動に対する意識について調査した結果をまとめたものである。

【図3】に示したように、異文化をもつ人々との交流について、80%以上の児童が「楽しみ」「どちらかという楽しみ」と答えている。このことから、大部分の児童は異文化をもつ人々との交流に対しての抵抗感がないことがうかがわれる。しかし、「どちらかという楽しみではない」「楽しみではない」と答え、異文化をもつ人々との交流活動に対して抵抗感をもっている児童が5名いる。

その理由としては「(話しかけられても)相手のいうことが分からないかもしれないから」「(話しかけても)言葉が通じないかもしれないから」「英語が分からないから」「何と話したらいいか分からないから」「はずかしい」を挙げている。

ウ 振り返りに対する意識の実態

【図4】【図5】は振り返りに対する意識の実態について、調査した結果をまとめたものである。

【図4】に示したように、70%弱の児童が、学習の振り返りを文章で書くことを「難しいと感じる」と答えている。

その理由としては、【図5】に示したように、複数回答で「書きたいことはあるが、うまくまとめられないから」を14名、「文章で書くのが苦手」を11名、「書く時間が足りない」「何を書いたらいいのかわからないから」を6名が挙げた。

(3) 配慮事項

実態調査の結果から次のような配慮事項が明らかになった。

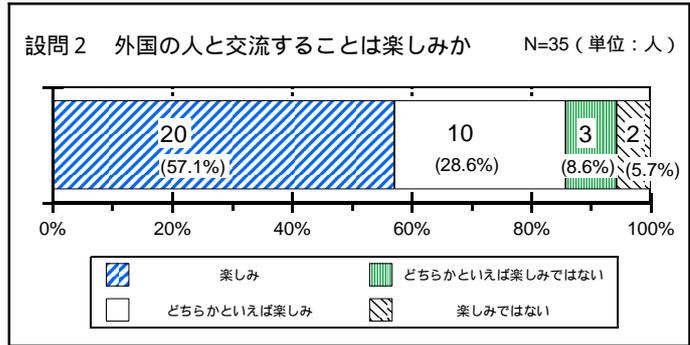
- ア 「英語」に対しての抵抗感をもちたせないよう、扱う言語材料について考慮する。
- イ 「異文化をもつ人々」との交流においては、コミュニケーションを通じての意思疎通の自信をもたせるようなコミュニケーション活動を多くする。
- ウ 振り返りについては文章での記述を少なくし、選択肢等を活用する。
- エ 英語活動、異文化をもつ人々との交流への抵抗感をもつ児童への支援をする。

3 交流活動を位置付けた英語活動についての手だての試案

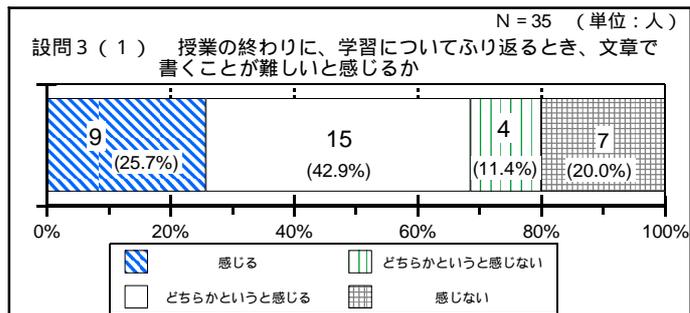
(1) 手だての試案作成の観点

実態調査の分析から明らかになった配慮事項を基に、次の観点から手だての試案を考えていくこととする。

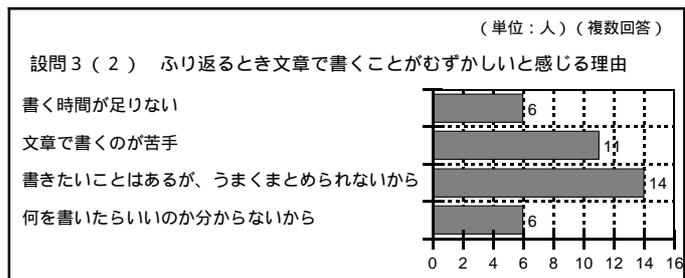
- ア 英語に対する抵抗感を少なくするために、英語に親しむ活動で扱う言語材料を、児童に身近なものとし、表現に繰り返し自然に親しませるゲームや歌などを多く取り入れる。
- イ 異文化をもつ人々との交流においては、コミュニケーションを通じての意志疎通を多く体験させる。また、英語に親しむ活動において、活動に必要な言葉に加えて、コミュニケーション



【図3】異文化をもつ人々との交流活動に対する意識の実態



【図4】振り返りに対する意識の実態(1)



【図5】振り返りに対する意識の実態(2)

に必要な表現にも親しませる。また、アイコンタクト・笑顔など、コミュニケーションを図る際に心がけたいことを児童のめあてとして取り入れていく。

ウ ふり返りカードに、選択肢による自己評価を取り入れたり、考える観点を明らかにした上で記述する項目を入れたりするなどして、自己の活動のふり返りを短時間で行えるようにする。

エ 英語活動、異文化をもつ人々との交流への抵抗感をもつ児童の活動状況を観察し、励ましたり、助言したりするなど言葉がけを行う。また、異文化をもつ人々の交流の際には、共に行動しながら支援する。

(2) 交流活動を位置付けた英語活動についての手だての試案

基本構想と手立てにかかわる実態調査の結果を受け、交流活動を位置付けた英語活動の手だての試案を次頁【図6】のように作成した。

(3) 検証計画

指導実践をとおして手だての試案の妥当性を検証するために、全体の意欲の変容の分析に加えて、個人の変容状況を総合的に分析・考察する。検証計画は【表3】に示すとおりである。

個人の変容状況については、日常の様子、実態調査、事前調査の結果から3名を抽出し、活動中の発言や行動、ふり返りカードの記述内容から分析・考察する。【表4】は児童の記述内容・活動の様子についてそれぞれの意欲の状況を判断するための基準を示したものである。また、指導実践の前後におけるコミュニケーションを図ろうとする意欲の変容状況については、事前・事後調査の記述内容を分析し、考察することとする。(事前・事後調査紙は【補充資料2】参照)

【表3】検証計画

検証項目	検証内容	検証方法	処理・解釈の方法
コミュニケーションを図ろうとする意欲の変容状況 (全体)	・興味・関心 ・自信 ・満足感	・指導実践の事前と事後に質問紙(評定尺度法)による意識調査を行う ・質問紙への記述の内容から判断する	・変容の状況を ² 検定(変化の検定)を用いて分析し、考察する ・自由記述の内容について、分析基準を基に分析し、考察する
コミュニケーションを図ろうとする意欲の変容状況 (抽出児)	・興味・関心 ・自信 ・満足感	・検証内容に関する事項について活動中の発言や行動を記録する ・「できるかもグラフ」の記入から判断する ・「ふり返り」でのカードへの記述内容から判断する	・活動中の発言や行動(ビデオ記録も含む)について分析基準を基に分析し、考察する ・「できるかもグラフ」の記入を基に考察する ・「ふり返りカード」の記述内容について分析基準を基に分析し、考察する

【表4】分析基準

構成要素	分析基準		
	A	B	C
興味・関心	・活動ごとに相手に対して願いや疑問を強くもつ ・次の交流への意欲と確かな見通しをもっている (行動例) ・相手の話を積極的に聞いている ・相手に繰り返し話しかけている ・分からないことを質問したり、聞き返したりしている ・次の活動に対する意欲や見通しを発言したり、記述したりしている	・相手に対して知りたいことや疑問をもつ ・次の交流への意欲をもっている (行動例) ・相手の話を聞いている ・相手に話しかけている ・分からないことを聞き返している ・次の活動に対する意欲を発言したり、記述したりしている	・相手に対して知りたいことや疑問をもたない ・次の交流への意欲がない (行動例) ・話を聞こうとしない ・相手に話しかけようとしない ・分からないことを聞き返さない ・次の活動に対する意欲を示さない
満足感	・意志疎通ができたことの楽しさ・おもしろさに加えて、意志疎通の大切さや価値を感じている ・自分の変化・成長を感じると共に、伝え合いへの意欲を示している (記述例) ・通じたら、うれしいもっと話したくなる ・伝わりと心も通じ、分かり合える気がする ・分かり合ったら、一歩近づいて仲良くなれる気がする	・意志疎通ができたことの楽しさ・おもしろさを感じている ・自分の変化・成長を感じている (記述例) ・会話が楽しくなる ・通じないと思っていたのに通じるとうれしい ・伝えたいことが伝われば楽しい	・意志疎通ができたことの楽しさ・おもしろさを感じていない (記述例) ・何とも思わない ・うれしいとかは思わない

活動	活動の内容	指導上の留意点
オリエンテーション	単元の見直しをもつ 異文化をもつ人々のビデオレターを視聴する	英語活動を外国の人と交流しながら進めることを知らせる 相手や交流への興味・関心をもたせる コミュニケーションを図る際に心がけたいことを意識させる
「出会う交流」	異文化をもつ人々と交流をする ・異文化をもつ人々の話を聞く ・ゲームや歌などをいっしょにする 交流をふり返る ・自己評価	異文化をもつ人々のパーソナリティが表出する自己紹介を聞いたり、ゲームなどで交流したりすることで相手へ興味・関心をもたせる コミュニケーションツールとしての英語の必要性に気付かせる 交流への抵抗感をもつ児童への支援 相手の情報が集められたか、相手が自分のことをどれだけ分かってくれたかを視点にさせる 次の交流で尋ねたいことを考えさせる
英語に親しむ活動	互いに知り合う活動に必要な英語を知る お互いに知り合うための英語に親しむ活動をする 友達に慣れ親しんだ英語を使ってみる 活動をふり返る ・自己評価	相手のことを尋ねたり、自分のことを伝える表現を扱う 相手の表現が分からないときの聞き返しの表現などコミュニケーションをつなぐ表現を扱う ゲームなどを通して、コミュニケーション体験を繰り返しさせる 抵抗感をもつ児童への声かけ
「知り合う交流」	異文化をもつ人々との交流をする ・自分の交流したい相手と親しんだ英語などを使って互いに知り合う 交流をふり返る ・自己評価	興味・関心のある相手と少人数での交流をさせる 親しんだ英語による意思疎通の成立を意識させる 交流への抵抗感をもつ児童への支援 前回の交流と比較して、親しくなれたかを視点にさせる 一緒にしてみたいことを考えさせる
英語に親しむ活動	共に活動するときを使う英語を知る 共に活動するときを使う英語に親しむ活動をする 友達に慣れ親しんだ英語を使ってみる 活動をふり返る ・自己評価	考えた活動に必要な表現を扱う 話題にしたい物の名前を尋ねたり、相手の意志を確認する表現などコミュニケーションの成立・継続に必要な表現を扱う 言語で表現できない部分は表情・動作など自分なりの表現の工夫で補うことにも気付かせる ゲームなどを通して、コミュニケーション体験を繰り返しさせる 抵抗感をもつ児童への声かけ
「共に活動する交流」	異文化をもつ人々との交流をする ・自分の交流したい相手と親しんだ英語や動作などを使って共に活動する 交流をふり返る ・自己評価	特定の異文化をもつ人と少人数での交流をさせる 親しんだ英語による対話の成立や継続を意識させる 伝え合いの成立のための自分なりの表現に目を向けさせる 表情や動作など自分なりに工夫した表現も含めて伝えさせ、そのよさを感じさせる 交流への抵抗感をもつ児童への支援 前回の交流と比較して、親しくなれたかを視点にさせる 仲良しになれた訳を考えさせ、コミュニケーションする価値に気付かせる
まとめ	単元全体のふり返りをする 全体で交流する	グループごとの活動での成果を全体に広げる コミュニケーションを図ることの大切さを意識させ、これからの生活に生かしていけるよう意欲付けを図る

「注」波線の付されている事項は実態調査の結果から手だての試案に生かした内容と留意点である。

【図6】交流活動を位置付けた英語活動についての手だての試案

4 指導実践

(1) 手だての試案に基づく指導計画

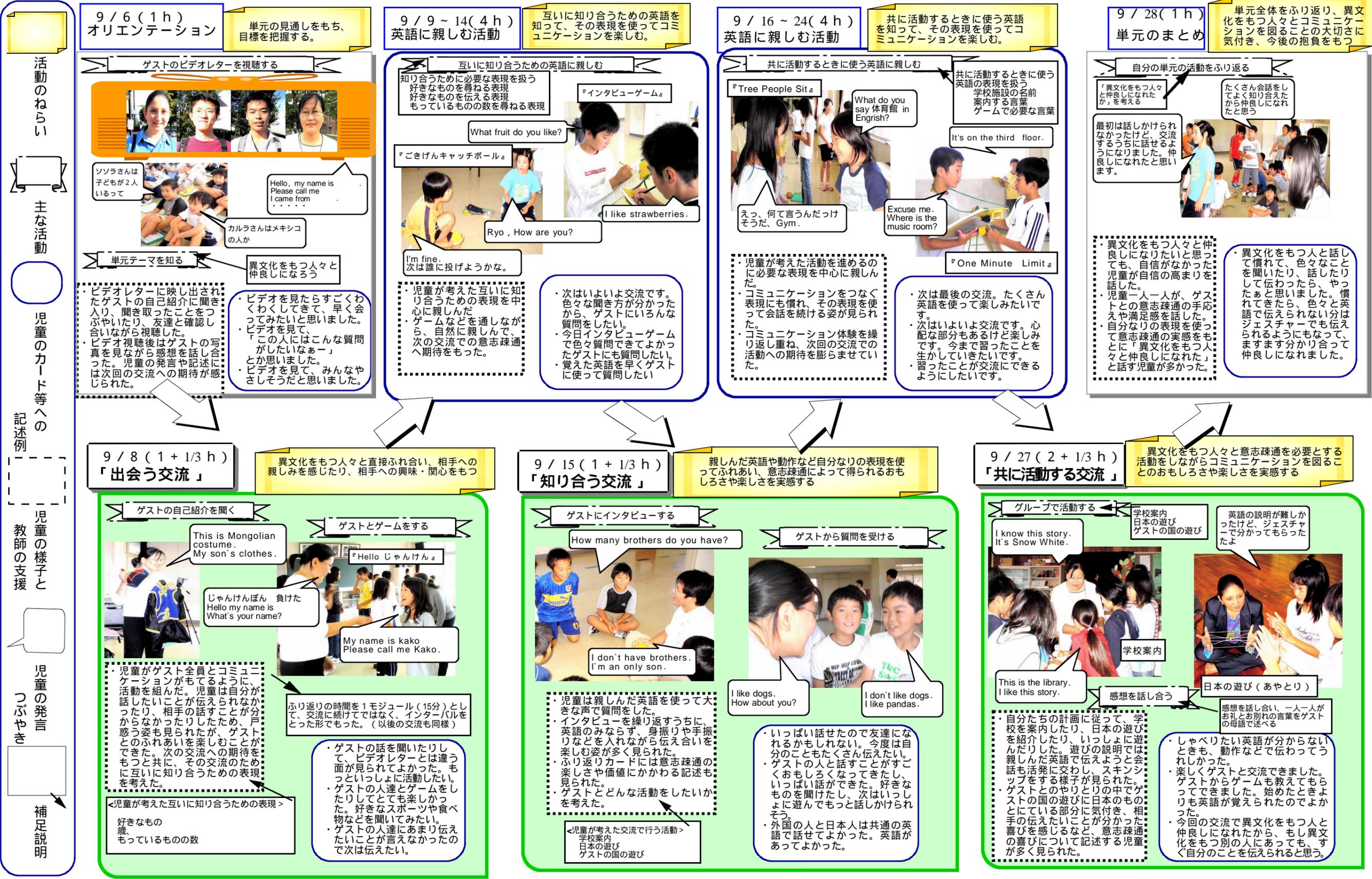
手だての試案に基づく指導計画は【表5】に示すとおりである。

【表5】手だての試案に基づく指導計画(全15時間 事前・事後調査の時間は含まない)

段階	月/日 (曜日) <回数>	活動の内容	指導上の留意点
	9/6 (月)	事前調査	
オリエンテーション	9/6 (月) <1>	単元の見直しをもつ 目標の把握 交流活動にゲストとして異文化をもつ人々のビデオレターを見る	外国の人と交流しながら進めることを知らせる 単元テーマ「異文化をもつ人々と仲良しになろう」を把握させる 名前と簡単なあいさつが入ったビデオを見て、相手への興味・関心をもたせる
「出会う交流」	9/8 (水) 1/3	異文化をもつ人々と交流をする 異文化をもつ人々の話を聞く ゲームをいっしょにする ・歌 Hello ・ゲ Hello, じゃんけん ・ゲ ジェスチャーゲーム 交流をふり返り、意志疎通ができたかを考える 相手から何を聞いたかったか、自分が何を伝えたかったかを考える	パーソナリティを表出させた異文化をもつ人々の自己紹介を聞かせたり、ゲームなどで直接ふれあわせたりすることで相手への親しみや興味・関心をもたせる 異文化をもつ人に抵抗感をもつ児童には言葉がけなどの支援を行う 互いに知り合うために聞きたいことを考えさせる
英語に親しむ活動	9/9 (木) 1/3	互いに知り合う活動に必要な表現に親しむ コミュニケーションに必要な表現に親しむ <あいさつの仕方・相手の気分の聞き方> How are you? I'm fine(hungry, happy, sad ...) I have a(headache, fever...) ・歌 Hello ・ゲ One Minute Limit ・ゲ 魔法使いゲーム ・ゲ ご機嫌うかがいキャッチボール	全ての児童と前時に扱った会話表現を使って、一対一のコミュニケーションをする あいさつの仕方を確認する 互いのことを分かり合える言語材料を扱う 気分(emotion)の言い方をフラッシュカードを使ったり、ジェスチャーを加えて扱う ゲームなどをとおして友達や教師との一対一のコミュニケーションを多く体験させる 抵抗感をもつ児童を励ます 本時に扱った会話表現を使って、全て児童との一対一のコミュニケーションをする
	9/10 (金) 1/3	互いに知り合う活動に必要な表現に親しむ コミュニケーションに必要な表現に親しむ <相手の情報を得る表現> I like Do you like ? Yes, I do. No, I don't. <コミュニケーションに必要な表現> 自己紹介 Sorry. Pardon? Once again(more) please. Speak more slowly, please. ・ゲ パスポートコントロール ・ゲ Three People Sit ・ゲ One Minute Limit ・歌 Good-by Song	全ての児童と前時に扱った会話表現を使って、一対一のコミュニケーションをする 相手の表現が分からないときの聞き返しの表現などコミュニケーションの成立に必要な表現を扱う 相手の好きなもの・得意なものを尋ねる表現、自分の好きなもの・得意なことを伝える表現を扱う 「 」に入る言い方(色・食べ物・スポーツ・季節)について、子供達の身近な表現を扱う ゲームなどをとおして友達や教師との一対一のコミュニケーションを多く体験させる 抵抗感をもつ児童を励ます 本時に扱った会話表現を使って、全て児童との一対一のコミュニケーションをする
	9/13 (月) 1/3	互いに知り合う活動に必要な表現に親しむ コミュニケーションに必要な表現に親しむ <相手の情報を得る表現> What do you like? I like How many do you have? I have	全ての児童と前時に扱った会話表現を使って、一対一のコミュニケーションをする 相手の好きなもの・得意なものを尋ねる表現、自分の好きなもの・得意なことを伝える表現に加えて、持っているものの数を尋ねたり、伝える表現を扱う 数の言い方の確認をする

英語に親しむ活動	<p><コミュニケーションに必要な表現> May I ask some questions? Sure.</p> <p>・ゲ Three People Sit ・ゲ One Minute Limit ・歌 Good-by Song</p> <p><1></p> <p>9/14 (火)</p> <p>互いに知り合う活動に必要な表現に親しむ コミュニケーションに必要な表現に親しむ <相手の情報を得る表現> When is your birthday? July 3. How old are you? 11.(I'm 11.) 今まで親しんだ表現を使いながら、いろいろな人とコミュニケーションをとる</p> <p>・ゲ インタビューゲーム</p> <p><1></p>	<p>「 」に入る言い方(色・食べ物・スポーツ・季節)について、子供達の身近な表現を扱う ゲームなどをとおして友達や教師との一対一のコミュニケーションを多く体験させる</p> <p>抵抗感をもつ児童を励ます</p> <p>本時に扱った会話表現を使って、全て児童との一対一のコミュニケーションをする</p> <p>全ての児童と前時に扱った会話表現を使って、一対一のコミュニケーションをする 誕生日や年齢を尋ねたり、伝える表現を扱う 月の言い方を誕生日の言い方を使って扱う 月の言い方に関連して曜日の言い方も確認する 話しかけ方・別れ方などの表現も扱う コミュニケーションの際には握手などのスキンシップもさせる ゲームなどをとおして友達や教師との一対一のコミュニケーションを多く体験させる</p> <p>抵抗感をもつ児童を励ます</p> <p>本時に扱った会話表現を使って、全て児童との一対一のコミュニケーションをする</p>
「知り合う交流」	<p>9/15 (水)</p> <p>異文化をもつ人々とグループでの交流をする 自分の交流したい相手と親しんだ英語や動作などを使って互いを知り合う</p> <p>・ダ 「マイムマイム」 ・ゲ Simon Says ・ゲ ご機嫌うかがいキャッチボール ・ゲ ジェスチャーゲーム ・ゲ 伝言ゲーム</p> <p><1/3></p> <p>交流をふり返り、仲良しになれたかを考える もっと仲良くなるためにどんなことをすればいいか考える</p>	<p>ゲスト1名に対し児童10名以下で編成したグループでの交流をさせる 交流に抵抗感のある児童の活動を支援する 言葉以外でのコミュニケーションのよさも感じさせる</p> <p>ゲストの感想を聞き、ゲストの国の「さようなら」を教えてもらいその言葉でお別れする</p> <p>学校案内のような、会話をとおしてできる活動を考えさせる</p>
英語に親しむ活動	<p>9/16 (木)</p> <p>活動に必要な言葉を考える (遊びや学校案内等の活動) ゲストに伝えたい表現に親しむ <自分の情報を伝える表現> 自己紹介 友達紹介 This is my friend. His(Her) name is . What subject do you like best?</p> <p>・ゲ Three People Sit</p> <p><1></p> <p>9/21 (火)</p> <p>共に活動するときを使う英語の表現に親しむ コミュニケーションに必要な表現に親しむ <活動に必要な用語・表現> 学校施設の言い方 Music room. Gym. etc. <コミュニケーションに必要な表現> What do you say in English? Excuse me. May I ? I understand. Sorry. Pardon? Sorry, I don't understand.</p> <p>・ゲ 自己紹介・友達紹介ゲーム ・ゲ One Minute Limit</p> <p><1></p> <p>9/22 (水)</p> <p>共に活動するときを使う英語の表現に親しむ コミュニケーションに必要な表現に親しむ</p>	<p>全ての児童と前時に扱った会話表現を使って、一対一のコミュニケーションをする 活動で使いたい言葉を出させる ゲストに伝えなかった自分の情報を伝える表現を扱う(ゲストに聞きたい表現も含む) カードを使って教科の表現を知らせる ゲームなどをとおして友達や教師との一対一のコミュニケーションを多く体験させる 抵抗感をもつ児童への励まし</p> <p>本時に扱った会話表現を使って、全て児童との一対一のコミュニケーションをする</p> <p>全ての児童と前時に扱った会話表現を使って、一対一のコミュニケーションをする コミュニケーション場面にふさわしい働きをもった言語材料を扱う 話題にしたいものの名前を尋ねたり、相手の意志を確認したりする表現などコミュニケーションの継続に必要な表現を扱う 学校施設の言い方に慣れるよう、絵地図等を使用する 英語活動 で親しんだ言語材料も繰り返し取り扱う ゲームなどをとおして友達や教師との一対一のコミュニケーションを多く体験させる 抵抗感をもつ児童を励ます</p> <p>本時に扱った会話表現を使って、全ての児童との一対一のコミュニケーションをする</p> <p>全ての児童と前時に扱った会話表現を使って、一対一のコミュニケーションをする</p>

【資料1】指導実践の概要



9 / 6 (1h) オリエンテーション
単元の見通しをもち、目標を把握する。

ゲストのビデオレターを視聴する

ソノラさんは子どもが2人いるって
カルラさんはメキシコの人か

Hello, my name is Please call me I came from ...

単元テーマを知る
異文化をもつ人々と仲良しになろう

ビデオレターに映し出されたゲストの自己紹介に聞き入り、聞き取ったことをつぶやいたり、友達と確認し合いながら視聴した。ビデオ視聴後はゲストの写真を見ながら感想を話し合った。児童の発言や記述には次回の交流への期待が感じられた。

ビデオを見たらすごくわくわくしてきて、早く会ってみたいと思いました。ビデオを見て、「この人にはこんな質問がしたいなあ」とか思いました。ビデオを見て、みんなやさしそうだと思いました。

9 / 9 ~ 14 (4h) 英語に親しむ活動
互いに知り合うための英語を知って、その表現を使ってコミュニケーションを楽しむ。

互いに知り合うための英語に親しむ

知り合うために必要な表現を扱う
好きなものを探る表現
好きなものを伝える表現
もっているもの数を探る表現

『インタビューゲーム』
『ごきげんキャッチボール』

What fruit do you like?
Ryo, How are you?
I like strawberries.
I'm fine. 次は誰に投げようかな。

児童が考えた互いに知り合うための表現を中心に親しんだ。
ゲームなどを通して、自然に親しんで、次の交流での意志疎通へ期待をもった。

次はいよいよ交流です。色々な聞き方が分かったから、ゲストにいるんな質問をしたい。
今日インタビューゲームで色々質問できてよかったゲストにも質問したい。
覚えた英語を早くゲストに使って質問したい

9 / 16 ~ 24 (4h) 英語に親しむ活動
共に活動するとき使う英語を知って、その表現を使ってコミュニケーションを楽しむ。

共に活動するとき使う英語に親しむ

『Tree People Sit』
『One Minute Limit』

What do you say 体育館 in English?
It's on the third floor.
えっ、何て言うんだっけ そうだ、Gym.
Excuse me. Where is the music room?

児童が考えた活動を進めるのに必要な表現を中心に親しんだ。
コミュニケーションをつなぐ表現にも慣れ、その表現を使って会話を続ける姿が見られた。
コミュニケーション体験を繰り返し重ね、次回の交流での活動への期待を膨らませている。

次は最後の交流。たくさん英語を使って楽しみたいです。
次はいよいよ交流です。心配な部分もあるけど楽しみです。今まで習ったことを生かしていきたいです。
習ったことが交流にできるようになりたいです。

9 / 28 (1h) 単元のまとめ
単元全体をふり返り、異文化をもつ人々とコミュニケーションを図ることの大切さや気づき、今後の抱負をもつ

自分の単元の活動をふり返る

「異文化をもつ人々と仲良しになれたか」を考える
たくさん会話をしたから仲良しになれたと思う
最初は話しかけられなかったけど、交流するうちに話せるようになっていきました。仲良しになれたと思います。

異文化をもつ人々と話し慣れて、色々なことを聞いたり、話したりして伝わった、やっとなんか話せました。慣れてきたら、色々な英語で伝えられるようになって、ますます仲良しになれました。

異文化をもつ人々と仲良しになりたいと思ったけど、自信が高まりを話した。
児童一人一人が、ゲストとの意志疎通の手応えや満足感を話して、自分なりの表現を使って意志疎通の実感をもつと「異文化をもつ人々と仲良しになれた」と話す児童が多かった。

9 / 8 (1 + 1/3 h) 「出会う交流」
異文化をもつ人々と直接ふれ合い、相手への親しみを感じたり、相手への興味・関心をもつ

ゲストの自己紹介を聞く
ゲストとゲームをする

This is Mongolian costume. My son's clothes.
Hello じゃんけん
じゃんけんばん 負けた Hello my name is What's your name?
My name is kako Please call me Kako.

児童がゲスト全員とコミュニケーションがもてるように、活動を組んだ。児童は自分が話したいことが伝えられなかったり、相手の話すことが分からなかったりしたため、戸惑う姿も見られたが、ゲストとのふれあいを楽しむことができた。次の交流への期待をもつと共に、その交流のために互いに知り合うための表現を考えた。

ふり返りの時間を1モジュール(15分)として、交流に続けてではなく、インタビュー形式でやった。 (以後の交流も同様)

ゲストの話を聞いたりして、ビデオレターとは違う面が見られてよかった。もっといっしょに活動したい。
ゲストの人達とゲームをしたりしてとても楽しかった。好きなスポーツや食べ物などを聞いてみたい。
ゲストの人達にあまり伝えたいことが言えなかったの次は伝えたい。

児童が考えた互いに知り合うための表現
好きなもの、もっているもの数

9 / 15 (1 + 1/3 h) 「知り合う交流」
親しんだ英語や動作など自分なりの表現を使ってふれあい、意志疎通によって得られるおもしろさや楽しさを実感する

ゲストにインタビューする
ゲストから質問を受ける

How many brothers do you have?
I don't have brothers. I'm an only son.
I like dogs. How about you?
I don't like dogs. I like pandas.

児童は親しんだ英語を使って大きな声で質問をした。
インタビューを繰り返すうちに、英語のみならず、身振りや手振りなどを入れながら伝え合いを楽しむ姿が多く見られた。
ふり返りカードには意志疎通の楽しさや価値にかかわる記述も見られた。
ゲストとどんな活動をしたかを考えた。

いっばい話せたので友達になれるかもしれない。今度は自分のこともたくさん伝えたい。
ゲストの人と話すことがすごくおもしろくなってきた。嬉しい話を聞けたし、次はいっしょに遊んでもっと話しかけられそう。
外国の人と日本人は共通の英語で話せてよかった。英語があっけよかった。

児童が考えた交流で行う活動
学校案内
日本の遊び
ゲストの国の遊び

9 / 27 (2 + 1/3 h) 「共に活動する交流」
異文化をもつ人々と意志疎通を必要とする活動をしながらコミュニケーションを図ることのおもしろさや楽しさを実感する

グループで活動する

I know this story. It's Snow White.
This is the library. I like this story.
日本の遊び (あやとり)

自分たちの計画に従って、学校を案内したり、日本の遊びを紹介したり、いっしょに遊んだりした。遊びの説明では親しんだ英語で伝えようと会話も活発に交わし、スキミングをする様子が見られた。ゲストとのやりとりの中でゲストの国の遊びに日本のものと同じ部分に気づき、相手の伝えたいことが分かった喜びを感じるなど、意志疎通の喜びについて記述する児童が多く見られた。

しゃべりたい英語が分からないときも、動作などで伝わってうれしかった。
楽しくゲストと交流できました。ゲストからゲームも教えてもらってできました。始めたときよりも英語が覚えられたのでよかった。
今回の交流で異文化をもつ人と仲良しになれたから、もし異文化をもつ別の人があっても、すぐ自分のことを伝えられると思う。

5 実践結果の分析と考察

(1) コミュニケーションを図ろうとする意欲の変容状況（全体）

手だての試案に基づく指導実践によって、児童のコミュニケーションを図ろうとする意欲がどのように変容したのかを検証計画に基づいて分析し、考察する。

ア 「興味・関心」・「自信」の変容の 【表6】 コミュニケーションを図ろうとする意欲の変容状況

【表6】は構成要素にかかわるコミュニケーションを図ろうとする意欲の事前と事後の変容状況をまとめたものである。

「興味・関心」については、設問1において有意差が見られなかったが、設問2においては有意差が見られた。

設問1の結果は、対象児童が異文化をもつ人々と交流の経験をもつことから、事前調査の段階でほとんどの児童が+反応を示していたためであると考えられる。しかし【図7】が示すように、同じ+反応の中でも、より強い反応を示す児童が増加していること、【図8】が示すように、同じ+反応の中でも、より強い+反応に変容した児童が11名(31.4%)おり、-反応からより強い+反応に変容した児童も5名(14.3%)いることから、「興味・関心」は高まる傾向にあると考えられる。

設問2の結果から、英語活動に位置付けた「出会う交流」、「知り合う交流」、「共に活動する交流」の中で、異文化をもつ人々とふれあったり、親しんだ英語を実際に使い、互いに情報を伝え合ったりしたことによって、相手への親しみが

「自信」については、設問3・4共に有意差が見られた。

この結果から、英語に親しむ活動において、一対一のコミュニケーションをする活動を繰り返したこと、さらに、交流の場において、実際に異文化をもつ人々と親しんだ英語を使って、

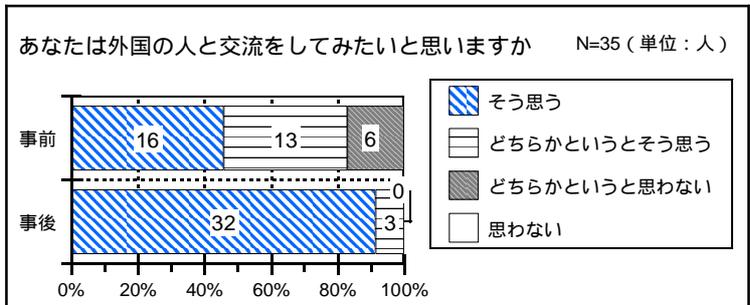
N = 35(単位：人)								
番号	構成要素	設問内容	事後		合計	χ ² の値	有意差	
			+	-				
1	興味・関心	あなたは外国の人と交流(会話、ゲーム、歌などをいっしょにすること)をしてみたいと思いますか。	+	29	0	29	4.17	
			-	6	0	6		
			合計	35	0	35		
2	興味・関心	あなたは相手の外国の人の情報(趣味、好きな食べ物など、その人の個人のこと)を知りたいと思いますか。	+	28	0	28	5.14	*
			-	7	0	7		
			合計	35	0	35		
3	自信	あなたは外国の人に知っている英語を使って、話をしたり、聞いたりすることができると思いますか。	+	10	0	10	24.00	*
			-	24	1	25		
			合計	34	1	35		
4	自信	あなたは外国の人に、伝えたいことがあったとき、言葉以外の方法(身振り・手振り・表情など)を使って伝えることができると思いますか。	+	15	0	15	20.00	*
			-	20	0	20		
			合計	35	0	35		

「注」 1 事前調査は9月6日、事後調査は9月28日に実施したものである
 2 各調査内容の意識をアイウエの四肢選択で行ったものである
 ア・イは+反応であり、アはイより強い反応である
 また、ウ・エは-反応であり、エはウより強い反応である
 3 *は有意水準5%で有意差が認められたことを示す
 4 χ²検定に用いた公式は次に示すとおりである
 なお、bは-反応から+反応へ、cは+反応から-反応へ変わった数を示す

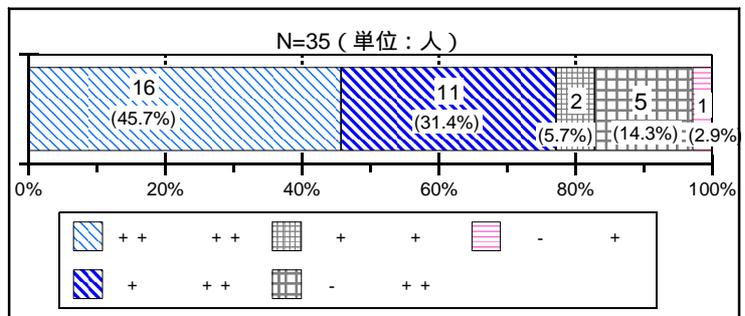
$$b + c > 10 \text{ のとき、} \chi^2 = \frac{(b - c)^2}{b + c}$$

$$b + c \leq 10 \text{ のとき、} \chi^2 = \frac{(b - c - 1)^2}{b + c}$$

(イエーツの修正式)



【図7】設問1に対する反応の変容



【図8】設問1（事後）の変容の内訳

意志疎通が図られた体験を繰り返したことによって、コミュニケーションへの自信が高まったものとする。

また、実際に異文化をもつ人々と直接ふれあう活動を多くし、動作や表情等の自分なりの表現方法によっても意志疎通が可能であることを実感したことで、コミュニケーションへの不安や抵抗感が和らいだことが自信を高めることになったものとする。

イ 「満足感」の変容の状況

【表7】は事前・事後調査の設問5・6の記述式の回答について分析基準を用いて分析し、全体的にどのように「満足感」が変容しているかを把握したものである。

(ア) 自分の意志が伝わったことに対する満足感にかかわる記述(設問5)

設問5の問いに対して、事前は1名を除き、事後ではすべての児童が+反応の記述をしている。

その理由に関して、【図9】に示すように、事前調査では分析基準から、Aが4名(11.4%)、Bが28名(80.0%)、Cが2名(5.7%)、無答が1名(2.9%)であったが、事後調査ではAが32名(91.4%)、Bが3名(8.6%)、Cが0名と判断した。

C B、B A、C Aと質的に高く変容した児童が29名(82.9%)見られた。また、質的に低く変容した児童はいなかった。

(イ) 相手の意志が伝わったことに対する満足感にかかわる記述(設問6)

設問6の問いに対して、事前・事後ではすべての児童が+反応の記述をしている。

その理由に関して、【図10】に示すように、事前調査では分析基準から、Aが7名(20.0%)、Bが22名(62.8%)、Cが3名(8.6%)、無答が3名(8.6%)であったが、事後調査ではAが32名(91.4%)、Bが3名(8.6%)、Cが0名(0%)と判断した。

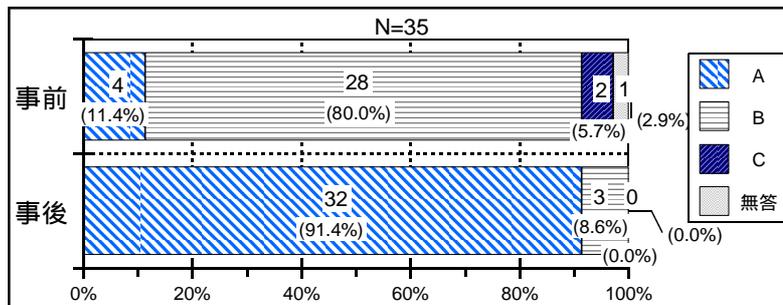
C B、B A、C Aと質的に高く変容した児童が26名(74.3%)見られた。また、質的に低く変容した児童はいなかった。

【表7】コミュニケーションを図ろうとする意欲(満足感)の変容状況

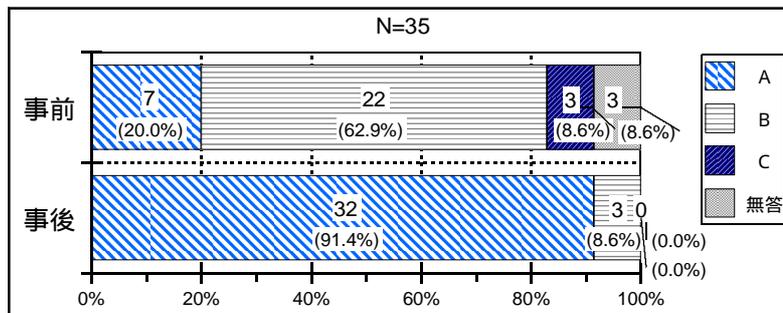
N = 35

	(設問5) あなたは、外国の人に、自分の伝えようとする話の中身が伝わったとしたら、そのことについてどう思いますか					(設問6) あなたは、外国の人が伝えようとする話の中身が分かったとしたら、そのことについてどう思いますか						
	反応 (+・-)		記述			反応 (+・-)		記述				
	前	後	A	B	C	空	前	後	A	B	C	空
1	+	+	←	○			+	+	←	○		
2	+	+	←	○			+	+	←	○		○
3	+	+	←	○			+	+	←	○		
4	+	+	←	○			+	+	←	○		
5	+	+	←	○			+	+	←	○		
6	+	+	▲				+	+	←	○		
7	+	+	←	○			+	+	←	○		
8	+	+	←	○			+	+	←	○		○
9	+	+	▲				+	+	▲			
10	-	+	←	○			+	+	▲			
11	+	+	←	○			+	+	←	○		
12	+	+	▲				+	+	▲			
13	+	+	←	○			+	+	←	○		○
14	+	+	←	○			+	+	←	○		○
15	+	+	←	○			+	+	←	○		
16	+	+	←	○			+	+	←	○		
17	+	+	←	○			+	+	←	○		
18	+	+	←	○			+	+	←	○		
19	+	+	←	○			+	+	←	○		○
20	+	+	←	○			+	+	▲			
21	+	+	←	○			+	+	←	○		
22	+	+	←	○			+	+	←	○		
23	+	+	←	○			+	+	←	○		○
24	+	+	←	○			+	+	←	○		
25	+	+	←	○			+	+	←	○		
26	+	+	←	○			+	+	←	○		
27	+	+	←	○			+	+	▲			
28	+	+	←	○			+	+	←	○		○
29	+	+	▲				+	+	←	○		
30	+	+	←	○			+	+	←	○		
31	+	+	←	○			+	+	▲			
32	+	+	▲				+	+	←	○		
33	+	+	←	○			+	+	▲			
34	+	+	←	○			+	+	←	○		
35	+	+	←	○			+	+	▲			

【注】表中の1-35の番号は児童の個人番号
←○は事前からの変容
▲は変容なし



【図9】設問5の理由記述の質的変容



【図10】設問6の理由記述の質的変容

これらのことを総合的に考えると「満足感」について問う設問5・6共に事前から+反応の児童が多かった。反応の理由について分析すると、事前での漠然とした理由に比べ、事後では全員が理由を具体的に記述しており、その内容も分析基準によって質的高まりが見られることから、満足感が高まったと考える。

これは活動の中でコミュニケーション体験を繰り返させ、意志疎通の楽しさやおもしろさを実感させる手だてが満足感を高めるのに有効に働いたからと考える。

しかし、実践後の感想で、今回交流した特定の異文化をもつ人とのコミュニケーションが成立したり、継続したことへの満足感を述べる一方で、「異文化をもつ他の人々ともコミュニケーションをしてみたかった」と記述した児童が多くみられた。このことから、単元構成の際、特定の異文化をもつ人とコミュニケーションを図る場を組み入れると共に、他のグループの異文化をもつ人々とコミュニケーションを図るような場をより多く組み入れることも検討する必要があると考える。

また、「グループのゲストの人と、もっとたくさん話したり、活動したりしたかった」という記述からは、ゲストとかかわる時間や場が少なかったと感じている児童がいることが明らかになった。このことは、児童の願いを実現させるように、異文化をもつ人と児童一人一人が向き合せて、十分にかかわることのできる場を保障していなかったことによると考えられる。そこで、交流活動におけるグループ編成の少人数化や、一人一人の活動を保障する活動内容の工夫などについても検討の余地があると考えられる。

(2) 抽出児の意欲の変容状況

日常の様子、実態調査、事前調査の結果から3名を抽出し、検証計画に従い、活動中の行動、ふり返りカード・できるかもグラフの記述内容から変容状況をまとめた。

抽出した児童は次のとおりである

抽出児X・・・事前調査で興味・関心は-反応、自信は+反応

抽出児Y・・・事前調査で興味・関心は+反応、自信が-反応

抽出児Z・・・事前調査で興味・関心、自信が共に-反応

ここでは、事前調査で興味・関心、自信が共に-反応である抽出児Zの例から検証する。意欲の変容状況は次頁【資料2】が示すとおりである。

オリエンテーションではゲストのビデオレターを見て、相手に興味・関心をもち、全員の名前、出身国を覚えてメモしたものの、「この人としゃべれるか心配です」と記述し、自信、満足感が共に低い状況であった。「出会う交流」では異文化をもつ人と直接ふれあったことで、相手に対する興味・関心を高めたが、相手に話しかけられてから応答するといった活動状況であった。その後「英語に親しむ活動」、「知り合う交流」、「英語に親しむ活動」、「共に活動する交流」を経るごとに、自分から相手に近付き話しかける姿が見られるようになった。自信については交流に使う英語の表現に慣れ親しみ、それを使って交流を重ねるにつれ、徐々に高まり、興味・関心、満足感も活動を進めるにつれて高まっていった。Z児自身もふり返りの記述や自己評価カードからその変容に気づき、満足していた。

これらのことを総合的に考えると、Z児の意欲が変容する契機として、異文化をもつ人々との交流が挙げられると考える。すなわち交流活動を位置付けた英語活動はZ児のコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めるのに有効に働いたと考える。

なお、抽出児X、Yの意欲の変容状況は、【補充資料4】に示す。

【資料2】抽出児Zの変容状況

(児童の様子)

- ・実態調査によると、英語活動、異文化をもつ人々との交流活動の両方に対する抵抗感はない
- ・与えられたことに対しては熱心に取り組むが、自分から行動を起こすことは少なく自信に欠ける
- ・初対面の人とかかわり合いには積極的ではない

(事前調査)

<興味・関心>	<自信>	<満足感>	
① -	③ --	⑤反応・・・うれしい(+)	(理由) 自分が表現したことが伝わるから (B)
② -	④ --	⑥反応・・・うれしい(+)	(理由) 相手と通じた感じがする (B)

<オリエンテーション>
[興味・関心]
ゲスト全員の名前、出身国を見てメモした。(B)

[満足感]
ビデオを見て4人の外人がしゃべっていて、びくびくしてビデオを見て、この人とならべられる心配です (C)

行動・様子
カード等への配属
A ⊕ C
児童の自己評価

<英語に親しむ活動①>
[興味・関心] (4/4)
分からないことを相手に「Pardon」と聞き返した。(B)

[満足感] (4/4)
今日は前より先生や友達の話が聞けてよかったです (B)

<英語に親しむ活動②>
[興味・関心] (4/4)
ゲームで相手を抜き、自分から「Excuse me」と話しかけた。(B)

[満足感] (4/4)
今日は前のイングリッシュタイムより進んで伝えることができたのでよかったです (B)

<まとめ>
[興味・関心]
「もっと異文化をもつ人々と話したい」と交流への意欲を発言した。(A)

[満足感]
交流する前は積極的に話しかけられなかったし、英語も自信がなかったけど、3回目の交流で自信がついたし、積極的にというめあてもクリアできたし、・・・ (A)

<出会い交流>
[興味・関心]
ゲストに近付き、話を聞いていた。「好きなスポーツは何ですか」と聞く言葉を知りたいとメモした。(B)

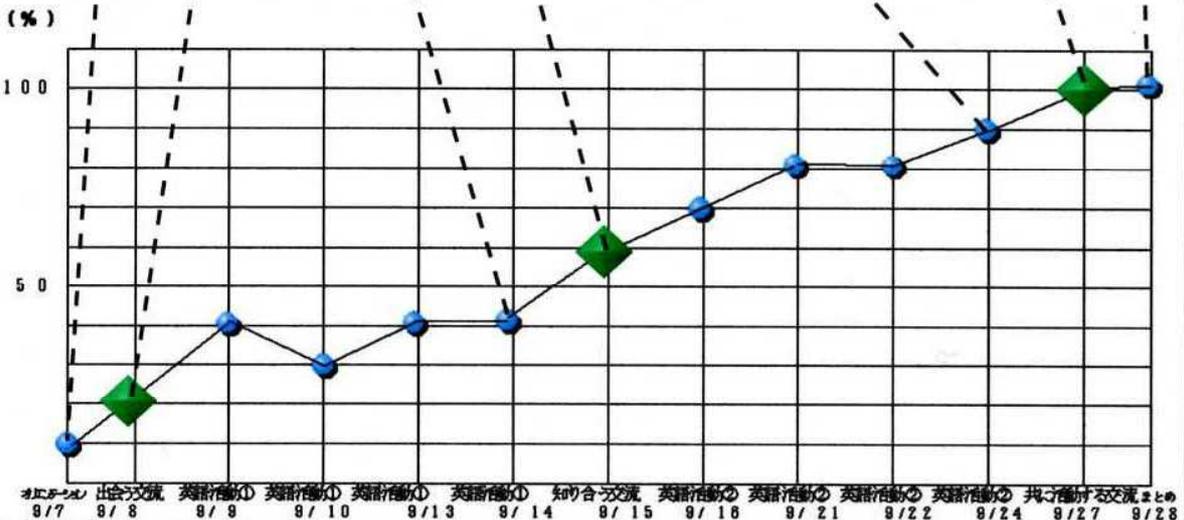
[満足感]
相手の伝えようとしていたことがあまり分からなかったし、聞き取れないところもあったから、次は聞き取れるようにしたいです (C)

<知り合う交流>
[興味・関心]
「ゲストの人の顔の運びとか簡単な歌とかをしたい」と次の交流でしたいことをメモした。(B)

[満足感]
クモさんに積極的に話しかけることができなかったところもありました。次のイングリッシュタイムは自分から声をかけたいです (B)

<共に活動する交流>
[興味・関心]
ゲストに振り向き話しかけ、「Once again please」と聞き返したり、英語の表現を「What do you say this in English?」とゲストに聞いたりした。(A)

[満足感]
今日はオールAだったし、めあての自分から積極的に話すこともできたのでよかったです。中国の遊びのお手玉あてが分かってたし、お手玉あてをやって楽しかったです。(A)



[自信] <できるかもグラフ>

(事後調査)

<興味・関心>	<自信>	<満足感>	
① ++	③ +	⑤反応・・・とてもうれしい(+)	(理由) 自分表現したことは伝わったら話すことに自信がついて伝えたいくなる (A)
② ++	④ ++	⑥反応・・・とてもうれしい(+)	(理由) 相手の伝えたことが通じたらコミュニケーションがとれるんじゃないかと思う (A)

(感想)

・英語の活動をやってから話しかける自信がついたし、交流に使いたい英語や会話を進める英語に親しむ活動が特に交流に役立ちました。異文化をもつ人々に積極的に話しかけることができたのでよかったです。

6 国際理解教育において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導の進め方に関する研究のまとめ

これまで手だての試案に基づき指導実践を行い、実践結果の分析と考察をとおして、その妥当性について検討してきた。そこで、国際理解教育において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導の進め方についての「成果」「課題」の二点についてまとめてみることにする。

(1) 成果

ア 英語活動に異文化をもつ人と、「出会う交流」「知り合う交流」「共に活動する交流」を位置付けたことにより、児童の異文化をもつ人々への興味・関心を高め、異文化をもつ人とのコミュニケーションへの動機付けを図ることができたこと

イ 相手との意志疎通を図る英語の表現に慣れ親しみ、その表現を使って、異文化をもつ人々と実際にコミュニケーションを図る活動を繰り返す中で、意志疎通の成立を実感したことが、児童が伝え合いの不安を和らげ、コミュニケーションへの自信を高めることができたこと

ウ 活動の中でコミュニケーションを図る体験を繰り返させ、そのおもしろさや楽しさを実感させたことにより、相手との意志疎通によって得られた喜びを感じ、児童のコミュニケーションの満足感が高まったこと

(2) 課題

ア 児童ひとりひとりが異文化をもつ人と十分なコミュニケーションを図るために、活動内容を工夫すること

以上のことから、課題はあるものの、交流活動を位置付けた英語活動の手だての試案は、交流への不安を徐々に和らげながら、児童のコミュニケーションを図ろうとする意欲を高め、国際理解教育において、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる上で有効であると考えられる。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

本研究は、国際理解教育において、交流活動を位置付けた英語活動をとおして、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導の進め方を明らかにし、国際理解教育における指導の改善に役立てようとしたものである。その結果、仮説が妥当であることが確かめられた。

なお、成果として得られたことは、次のことである。

(1) 国際理解教育において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導の進め方に関する基本構想の立案

国際理解教育において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導の進め方に関する基本的な考え方をまとめ、交流活動を位置付けた英語活動の基本構想を立案することができた。

(2) 交流活動を位置付けた英語活動についての実態調査及び調査結果の分析と考察

基本構想に基づき、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導の進め方にかかわる児童の実態調査を実施し、分析した。そのことにより、次のような配慮事項が明らかになり、これらを考慮した手だてを検討する手がかりを得ることができた。

ア 「英語」に対しての抵抗感をもたせないよう、親しむ活動で扱う言語材料について考慮すること

イ 「異文化をもつ人々」との交流においては、コミュニケーションを通じての意思疎通の自信をもたせるようにコミュニケーション活動を多くすること

ウ ふり返りについては文章での記述を少なくし、選択肢等を活用すること

エ 英語活動、異文化をもつ人々との交流への抵抗感をもつ児童への支援をする

(3) 交流活動を位置付けた英語活動についての手だての試案の作成

実態調査の分析から明らかになった配慮事項を基に、次の観点から交流活動を位置付けた英語活動についての手だての試案を作成することができた。

ア 英語に対する抵抗感を少なくするために、英語に親しむ活動で扱う言語材料を、児童に身近なものとし、表現に繰り返し自然に親しませるゲームや歌などを多く取り入れる。

イ 異文化をもつ人々との交流においては、コミュニケーションを通じての意志疎通を多く体験させる。また、英語に親しむ活動において、活動に必要な言葉に加えて、コミュニケーションに必要な表現にも親しませる。また、アイコンタクト・笑顔など、コミュニケーションを図る際に心がけたいことを児童のめあてとして取り入れていく。

ウ ふり返りカードに、選択肢による自己評価を取り入れたり、考える観点を明らかにした上で記述する項目を入れたりするなどして、自己の活動のふり返りを短時間で出来るようにする。

エ 英語活動、異文化をもつ人々との交流への抵抗感をもつ児童の活動状況を観察し、励ましたり、助言したりするなどの言葉がけを行う。また、異文化をもつ人々との交流の際には、共に行動しながら支援する。

(4) 指導実践

手だての試案に基づいて、交流活動を位置付けた英語活動の指導実践を行うことができた。

(5) 実践結果の分析と考察

検証計画に基づいて指導実践の結果を分析したことから、交流活動を位置付けた英語活動の手だての試案が国際理解教育において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導を進めていく上で、有効であるという見通しをもつことができた。

(6) 国際理解教育において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導の進め方に関する研究のまとめ

指導実践結果の分析と考察を基に、国際理解教育において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導の進め方に関して、成果と課題を明らかにすることができた。

2 今後の課題

本研究をより今後に生かすための課題として次のようなことが考えられる。

- (1) 学校の実情、児童の発達段階・実態に応じた、異文化をもつ人々との交流を位置付けた英語活動の進め方について、さらに検討すること
- (2) 指導実践によって高まった、児童のコミュニケーションへの意欲を継続させていく手だてについて、さらに検討すること

<おわりに>

長期研修の機会を与えてくださいました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と児童の皆さんに心から感謝を申し上げ、結びの言葉といたします。

【参考文献】

- 伊藤嘉一編著(2000),『小学校英語学習 レディゴー』,ぎょうせい
椎名仁編著(2000),『ここから始める 小学校英語活動』,ぎょうせい
小学校英語東書プラン作成委員会(2001),『小学校英語 英語活動カリキュラム・プランニング』,東京書籍
ジョエルバチャ(2002),『ティチャーズ&キッズ 一緒に世界について学ぼう』,Genki English
山内豊編著(2003),『子どもたちと楽しく!初めての英語活動』,教育同人社
渡邊寛治編著(1999),新教育課程実践シリーズ 『総合的な学習 初めての小学校英語 - 国際理解としてのわくわく授業プラン - 』,図書文化社

～ 補 充 資 料 ～

< 目 次 >

【補充資料1】	
実態調査紙	資 1
【補充資料2】	
事前・事後調査紙	資 3
【補充資料3】	
実践に使用したカード等	
1 できるかもグラフ	資 5
2 ふり返りカード()	資 5
3 English Time ふり返りカード()	資 7
4 ごきげんパスポート	資 8
5 インタビューメモ	資 8
【補充資料4】	
抽出児の意欲の変容	資 9
【補充資料5】	
学習活動案	資11

アンケートのお願い



これは、英語活動や外国の人と交流する活動についてのアンケートです。テストではありませんから、質問をよく読んで思っているとおりに答えてください。

5年 組 名前

【英語活動に対する意識】

1 (1) あなたは英語活動の時間が楽しみですか。あてはまる記号を一つ選んで に書いてください。

- ア 楽しみ
- イ どちらかという楽しみ
- ウ どちらかという楽しみではない
- エ 楽しみではない

(2) (1)でア、イと答えた人は、その理由を に書いてください。

(3) (1)でウ、エと答えた人は、その理由を に書いてください。

【異文化をもつ人々との交流に対する意識】

2 (1) あなたは外国の人と交流することは楽しみですか。あてはまる記号を一つ選んで に書いてください。

- ア 楽しみ
- イ どちらかという楽しみ
- ウ どちらかという楽しみではない
- エ 楽しみではない

(2) (1)でア、イと答えた人は、その理由を に書いてください。

(3) (1)でウ、エと答えた人は、その理由を に書いてください。

【ふり返りに対する意識】

3 (1) あなたは授業の終わりに、学習についてふり返るとき、文章で書くことが、むずかしいと感じることがありますか。あてはまる記号を一つ選んで に書いてください。

- ア 感じる
- イ どちらかというと感じる
- ウ どちらかというと感じない
- エ 感じない

(2) (1)でア、イと答えた人は、そう感じる理由にあてはまる記号を選んで に書いてください。
(いくつでもいいです)また、そのほかに理由があれば、オ その他の に書いてください。

- ア 何を書いたらいいのかわからないから
- イ 書きたいことはあるが、うまくまとめられないから
- ウ 文章で書くのが苦手
- エ 書く時間が足りない
- オ その他

これでアンケートは終わりです。ありがとうございました。

アンケートのお願い

このアンケートは、皆さんが外国の人と会ったときに、どんなことを思っているのかを知るためのものです。テストではありませんから、思っているとおりにお答えください。

5年 組 名前

【興味・関心】

- 1 あなたは外国の人と交流（会話、ゲーム、歌などをいっしょにすること）をしてみたいと思いますか。あてはまるものを一つ選んで に記号を入れてください。

ア 思う
イ どちらかというと思う
ウ どちらかというと思わない
エ 思わない

- 2 あなたは相手の外国の人の情報（しゅみ、好きな食べ物など、その人個人のこと）を知りたいと思いますか。あてはまるものを一つ選んで に記号を入れてください。

ア 思う
イ どちらかというと思う
ウ どちらかというと思わない
エ 思わない

【自信】

- 3 あなたは外国の人に、知っている英語を使って、話をしたり、聞いたりすることができると思いますか。あてはまるものを一つ選んで に記号を入れてください。

ア 思う
イ どちらかというと思う
ウ どちらかというと思わない
エ 思わない

- 4 あなたは外国の人に、伝えたいことがあったとき、言葉以外の方法（身振り・手振り・表情など）を使って伝えることができると思いますか。あてはまるものを一つ選んで に記号を入れてください。

ア 思う
イ どちらかというと思う
ウ どちらかというと思わない
エ 思わない

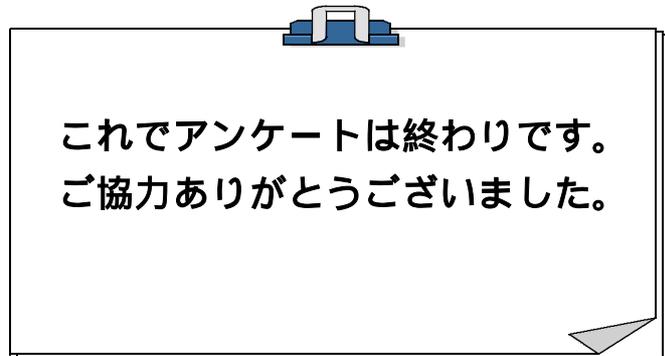
【満足感】

5 あなたは、外国の人に、自分の伝えようとする話の中みが伝わったとしたら、そのことについてどう思いますか。 に書いてください。また、その理由を に書いてください。

(理由)

6 あなたは、外国の人が伝えようとしている話の中みが分かったとしたら、そのことについてどう思いますか。 に書いてください。また、その理由を に書いてください。

(理由)



【補充資料3】実践に使用したカード等

1 できるかもグラフ

できるかもグラフ

5年 組

☆今日の活動を終わって、「次回ゲストや友達、先生に「話しかけられるかも」確率」は何%でしょう？

(%)	交流①	英語活動1	英語活動2	英語活動3	英語活動4	交流②	英語活動5	英語活動6	英語活動7	英語活動8	交流③
100											
50											

2 ふり返しカード()

ア 「出会う交流」で使用したふり返しカード

われら地球人 ふり返しカード②

めあて

5年 組 番

月/日	できたら○ できかこもう	A B C のどれかに○をしよう よくできた→A できなかった→C どちらとも言えない→B					次 の交 流で 話し かけ られ ると思 うか
		楽しく活動できたか	相手の話を聞こうとしたか	進んで話しかけようとしたか	相手の伝えたいことを分かったか	自分の伝えたいことを分かってもらえたか	
/	アイコンタクト 笑顔 大きな動作 大きな声 反応	A	A	A	A	A	思う どちらも 言えない 思わない

☆ゲストと知り合うために使いたい言葉

~~~~~

~~~~~

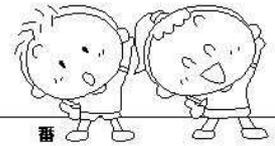
~~~~~

~~~~~

先生から

今日の感想 おもしろかったこと、できたこと、次へのほうふ など

われら地球人 ふり返しカード③



めあて

5年組 番

月/日	A B C のどれかに○をしよう よくできた→A できなかった→C どちらとも言えない→B					
できたろう でかこもう	楽しく活動 できたか	相手の話を 聞いたか	進んで話し かけたか	相手の伝え たいことを 分かったか	自分の伝え たいことを 分かってもら えたか	次の交流で 話しかけら れると思う か
アイコンタクト 笑顔	A	A	A	A	A	思う
大きな動作 大きな声	B	B	B	B	B	どちらとも 言えない
大反	C	C	C	C	C	思わない

☆ _____ さんと交流しました。

☆ 次の交流でどんなことをしたいですか

~~~~~

~~~~~

~~~~~

今日の感想 おもしろかったこと、できたこと、次へのほうふ など

先生から



月 日 ( )

交流メモ①

5年組

ゲストのことをメモしよう

|                    |                                                     |
|--------------------|-----------------------------------------------------|
| ゲストの名前<br>(ニックネーム) | ○ゲストについて分かったことや思ったこと<br>○聞いてみたいこと、伝えたいと思うこと などなど・・・ |
|                    |                                                     |
|                    |                                                     |
|                    |                                                     |
|                    |                                                     |
|                    |                                                     |

月 日 ( )

交流メモ②

5年組

聞いたことをことメモしよう!!

|                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| ゲストの名前<br>(ニックネーム)  | 自分で聞いたこと<br><今日の気分> |
|                     | <好きなもの>             |
|                     | <その他の情報>            |
| ~~~~~               |                     |
| <友だちとの情報交かんて分かったこと> |                     |

(ふり返しカード 裏面の補助シート)

(ふり返しカード 裏面の補助シート)

ウ 「共に活動する交流」で使用したふり返しカード

## われら地球人 ふり返しカード④

めあて

5年組 番

| 月/日 | できたか<br>できたもう<br>できなかった               | A         | B            | C             | A               | B                   | C                   | A                         | B                   | C                   |
|-----|---------------------------------------|-----------|--------------|---------------|-----------------|---------------------|---------------------|---------------------------|---------------------|---------------------|
|     |                                       | 楽しく活動できたか | 相手の話を聞こうとしたか | 進んで話しかけようとしたか | 相手の伝えたいことを分かったか | 相手の伝えたいことを分かってもらえたか | 自分の伝えたいことを分かってもらえたか | 他の異文化をもつ人に話しかけられると<br>思うか | 相手の伝えたいことを分かってもらえたか | 自分の伝えたいことを分かってもらえたか |
| /   | アイコンタクト<br>笑顔<br>大きな動作<br>大きな声<br>大反応 | A         | A            | A             | A               | A                   | A                   | 思う                        | どっちとも<br>言えない       | 思わない                |

☆ \_\_\_\_\_ さんとしたことは

☆ 新しく分かったことは

~~~~~

~~~~~

~~~~~

先生から

今日の感想 おもしろかったこと、できたこと、今後のほうふ など

3 English Timeふり返しカード ()
(同様のものを使用)

われら地球人 ふり返しカード

(E n g l i s h T i m e ①)

5年組 番

月/日	できたか できたもう できなかった	A B Cのどれかに○をしよう よくできた→A できなかった→B できなかった→C				今日の感想 できたこと 次へのほうふ	など
		進んで聞く ことができたか	進んで伝える ことができたか	相手の伝えて いることが分 かったか	自分が伝え たことを分か ってもらえたか		
/	アイコンタクト 笑顔 大きな動作 大きな声 大反応	A B C	A B C	A B C	A B C		
/	アイコンタクト 笑顔 大きな動作 大きな声 大反応	A B C	A B C	A B C	A B C		
/	アイコンタクト 笑顔 大きな動作 大きな声 大反応	A B C	A B C	A B C	A B C		
/	アイコンタクト 笑顔 大きな動作 大きな声 大反応	A B C	A B C	A B C	A B C		

4 ごきげんパスポート

ア English Time (英語に親しむ活動) の入室時に毎時間、児童との一対一のコミュニケーションを図り、既習フレーズの確認のために使用



ごきげんパスポート



5年 組 番

Date	だれに 何と答えたか	印	Date	だれに 何と答えたか	印
/			/		
()			()		
/			/		
()			()		
/			/		
()			()		

イ 「共に活動する交流」で
ゲストが使用したもの

5 インタビューメモ

English Time (英語に親しむ活動) で
使用



ごきげんパスポート②

5年 組 番

Date	何と聞かれて 何と答えたか	印
/		
()		
/		
()		



インタビューメモ

5年 組 番

名前	名前	名前
今日の気分	今日の気分	今日の気分
好きなもの	好きなもの	好きなもの
家族・きょうだい	家族・きょうだい	家族・きょうだい
その他の情報	その他の情報	その他の情報
名前	名前	名前
今日の気分	今日の気分	今日の気分
好きなもの	好きなもの	好きなもの
家族・きょうだい	家族・きょうだい	家族・きょうだい
その他の情報	その他の情報	その他の情報
名前	名前	名前
今日の気分	今日の気分	今日の気分
好きなもの	好きなもの	好きなもの
家族・きょうだい	家族・きょうだい	家族・きょうだい
その他の情報	その他の情報	その他の情報

【補充資料4】抽出児の意欲の変容状況

(抽出児X)

(児童の様子)

- ・実態調査によると、英語活動、異文化をもつ人々との交流活動の両方に対する抵抗感はない
- ・英語を習っていることから、英語を使つてのコミュニケーションには少なからず自信をもっている
- ・自己中心などところがあり、気が散りやすい

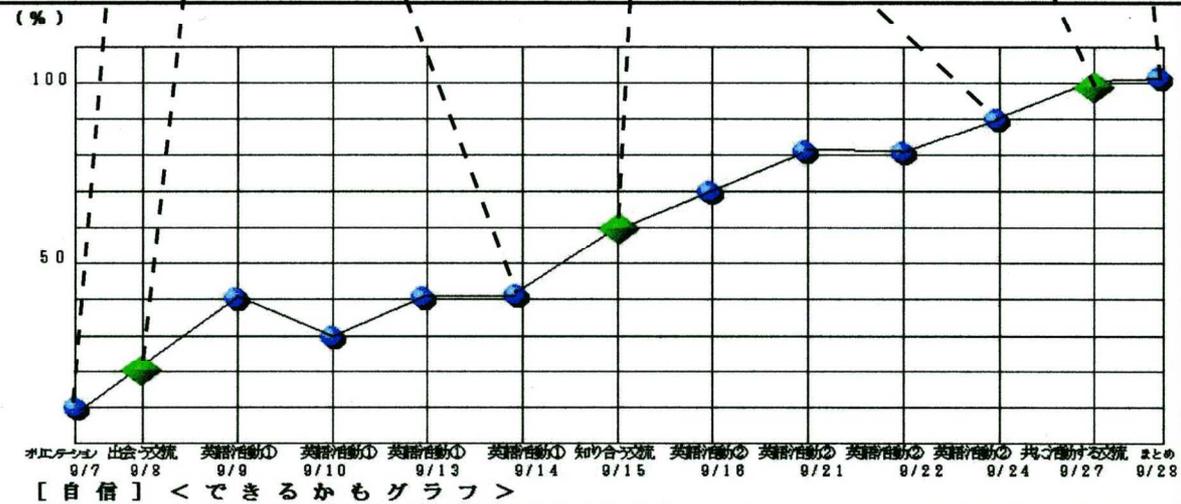
(事前調査)

<興味・関心>	<自信>	<満足感>
① -	③ +	⑤反応・・・うれしい(+)(理由) 伝わりと楽しいことができる気がする(B)
② --	④ ++	⑥反応・・・うれしい(+)(理由) 話しが伝わりと面白い話が聞ける気がする(B)



Activity Log for Child X, showing various interactions and satisfaction levels.

- <オリエンテーション>** [興味・関心] ビデオをあまり注視せず、手いりなども見られた。(C) [満足感] 次が交流なので少し不安です。だけどビデオを見て少し楽になりました。(C)
- <英語に親しむ活動①>** [興味・関心] (4/4) 相手にどんな自分から話したいかとインタビューした。(B) [満足感] (4/4) 今日はいつよりも時間が短く感じました。5人にインタビューできました。(B)
- <出会い交流>** [興味・関心] ゲストに近付き、話しかけていた。「誕生日はいつですか」「仕事は何をしたいですか」と聞く言葉を知りたいとメモした。(B) [満足感] (4/4) ゲストのペンさんと話せたのでよかったです。(B)
- <知り合う交流>** [興味・関心] 「中国のことをもっと聞きたい。クモさんは野球が好きなので一緒に野球ををしたい」と次の交流でしたいことをメモした。(B) [満足感] 今日のためて(クモさんのことを10分ほど知りたい)より9分ほど多く知れてよかったです。(B)
- <英語に親しむ活動②>** [興味・関心] (4/4) 「間違ったところを今度は間違えないで話したい」と、繰り返し友達や教師に聞いたり相手の質問に答えたりしていた。(A) [満足感] (4/4) English Timeの4回ためてが全部Aでよかったです。(B)
- <共に活動する交流>** [興味・関心] ゲストのゲームの説明を真剣に聞き、繰り返しゲストに話しかけたり、質問をしながら一緒にゲームをした。(A) [満足感] クモさんが言葉を分かってくれました。よかったです。ゼスチャーなども使ってこれあえました。これが最後のなで熱心に話を聞きました。(A)
- <まとめ>** [興味・関心] 「もう少し時間があれば、もっとふれたい」と交流への意欲を発言した。(A) [満足感] クモさんと一緒に遊んだり、話しをしたりして、クモさんのことをたくさん知ることができ、自分のことを分かってもらえたので仲良しになれたと思います。(A)



(事後調査)

<興味・関心>	<自信>	<満足感>
① ++	③ +	⑤反応・・・とてもうれしい(+)(理由) 最初はうまく伝わらなかったけど、伝わったらとてもうれしかった。(A)
② ++	④ +++	⑥反応・・・とてもうれしい(+)(理由) 最初はちんぷんかんぷんだったことが分かってとてもうれしく心が通じた気がしたから(A)

(感想)

- ・自分に足りないのは、言葉で伝わらないとき、ジェスチャーなどを使っても伝えようとする気持ちです。
- ・相手の人のことを聞いたり、色々聞いたり、自分のことも色々話することができました。話も熱心に聞いてよかったです。

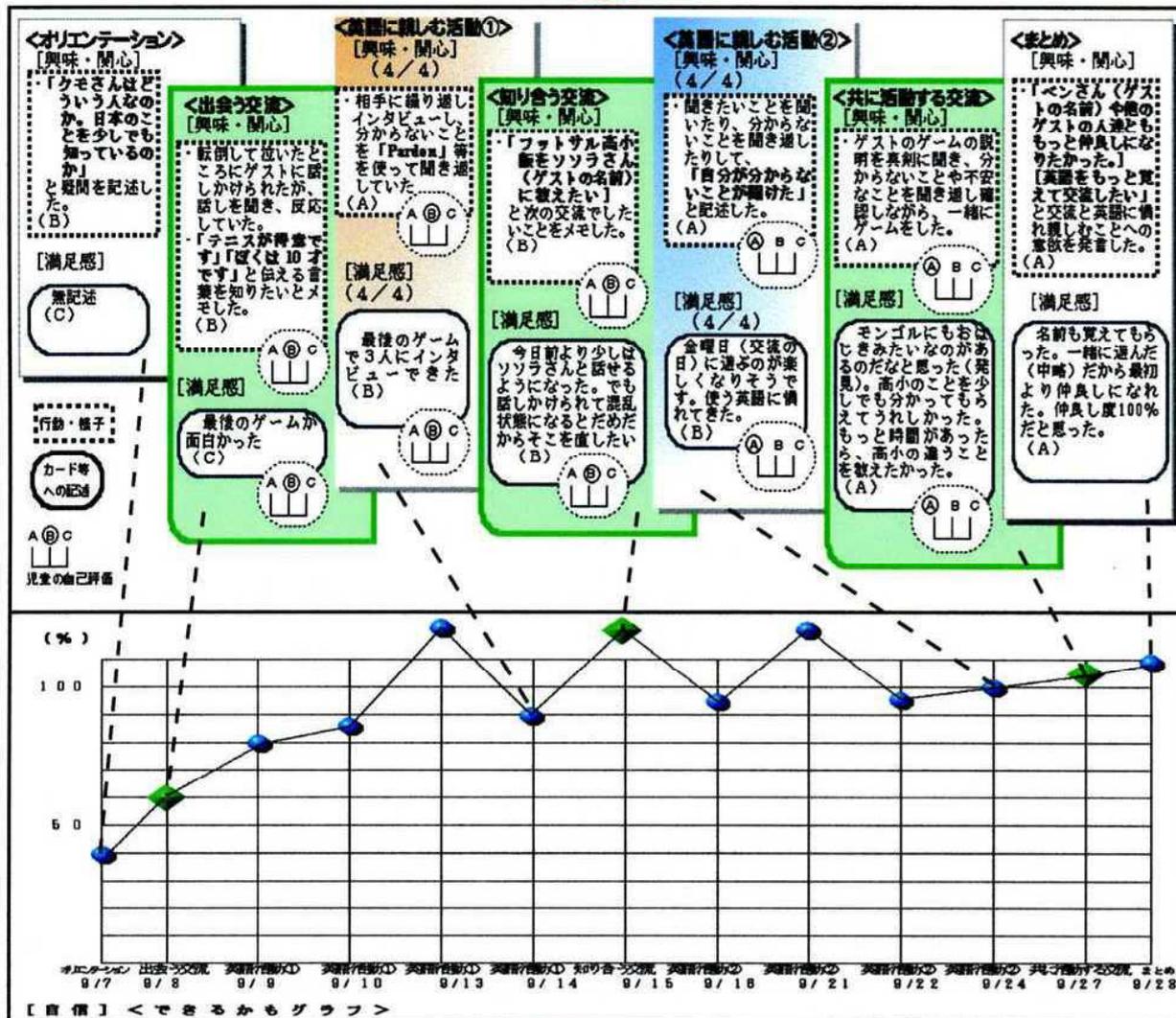
(抽出児 Y)

(児童の様子)

- ・実態調査によると、英語活動、異文化をもつ人々との交流活動の両方に対する抵抗感はない
- ・とても恥ずかしがり屋で、初めての相手とはなかなか会話が成立しない
- ・何事に対しても自信がもてず、一度失敗などして気持ちが沈むと、なかなか回復できない

(事前調査)

<興味・関心> ① ++ ② ++	<自信> ③ - ④ -	<満足感> ⑤反応・・・とてもうれしい(+) (理由) 伝わりそうにないのに伝わるという感じ (B) ⑥反応・・・うれしい(+) (理由) 相手の伝えようとするのが伝わって、相手が分かると思う。(B)
-------------------------	--------------------	--



(事後調査)

<興味・関心> ① ++ ② ++	<自信> ③ ++ ④ ++	<満足感> ⑤反応・・・とてもうれしい(+) (理由) 相手の聞いてきたことに答えて、それが伝われば伝えたやっかひがあるように思う (A) ⑥反応・・・とてもうれしい(+) (理由) 相手の伝えたことが分からないとすごく気の毒に思うけど、伝わると、気が楽になって相手の気持ちが近くに感じる (A)
-------------------------	----------------------	--

(感想)

- ・ゲストや先生・友達に話しかける自信が高くなった。
- ・英語活動はとても楽しかった。初めの交流のときよりゲストと話せるようになったけど、たくさん話されると混乱する。これからはそれを直して、異文化の人と交流したい。そのためにもっと英語をしたかった。終わってしまった残念。

【補充資料5】学習活動案

第5学年 英語活動学習活動案

期間	平成16年9月2日～9月29日
対象	盛岡市立高松小学校 5年 男子19名 女子16名 計35名
指導者	堀合りか（長期研修生）

1 単元名 われら地球人

2 単元の目標

異文化をもつ人々と臆せず、親しんだ英語や動作・表情などを使いながらかわり、楽しみながらコミュニケーションを図ろうとする意欲を高める

3 単元について

(1) 単元について

総合的な学習の時間に行われる英語活動は、英語そのものを学ぶのではなく、活動を通して国際理解を進めるものである。異文化をもつ人々に対して、臆することなく進んでかわろうとする態度、すなわち積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成をねらいとしている。

これまでの実践において児童はゲームや遊びなど体験的な活動をとおして、英語や異文化にふれ、親しんではいるが、異文化をもつ人々に進んでかわろうとするまでには至らなかった。これは、異文化をもつ人々に興味・関心をもつような直接の交流の経験が少ないこと、交流の中で、英語をコミュニケーションの道具・手段として実際に使う経験が少なかったため、意志疎通に不安があったことが原因と考える。

そこで本単元では「相手への興味・関心を高める交流活動」、「コミュニケーションを図るための英語の表現に親しむ英語活動」、「親しんだ英語を実際に使ってふれあう交流活動」をつなげ連続性をもたせた単元構成を行った。このことによってコミュニケーションの動機付けを図り、英語を実際に使ってコミュニケーションを図ることのおもしろさや楽しさの実感をさせ、コミュニケーションを図ろうとする意欲を高めると考える。

(2) 児童について

児童は総合的な学習の一環として3年生25時間、4年生10時間、の英語活動を行っている。異文化をもつ人々との実際の交流場面では、ゲームや歌などを一緒にする活動をとおして、簡単な英語にふれ、外国の生活・文化に親しむ活動を楽しむことができた。

実践に先駆けて行ったアンケートによる実態調査では、「英語活動の時間が楽しみか」という問いに対して、九割以上の児童が「楽しみ」「どちらかという楽しみ」と答えており、「外国の人と交流することは楽しみか」という問いに対して、約九割が「楽しみ」「どちらかという楽しみ」と答えている。このことから児童は英語活動や異文化をもつ人々との交流に対して興味・関心をもっていることが分かる。しかし、少数ながら、外国の人と交流することは、「どちらかという楽しみでない」、「楽しみでない」と感じている児童がいる。その理由として「言葉が通じないかもしれないから」、「何と話したらいいかわからない」を挙げていることから、コミュニケーションツールについての不安感や相手への興味・関心がもてないことがうかがわれる。

(3) 指導に当たって

本単元では、異文化をもつ人々との交流を3回位置付け、直接ふれあわせる体験をさせる。異文化をもつ人々として、コミュニケーションの道具・手段として英語を使う外国人留学生をゲストに迎え、交流させていく。

出会う交流では、異文化をもつ人々に出会わせ、興味・関心をもたせる。知り合う交流では、親しんだ英語を使いながら異文化をもつ人と互いに知り合わせる。共に活動する交流では異文化をもつ人と共に活動させる。

出会う交流と知り合う交流を結ぶ英語に親しむ活動では、相手との理解を深める会話表現に親しむ活動をする。その際、コミュニケーション場面にふさわしい働きをもった言語材料を扱う。知り合う交流と共に活動する交流を結ぶ英語に親しむ活動では、異文化をもつ人々と共に活動するための英語の表現を取り上げ、実際のコミュニケーション場面を想定した会話表現に親しむ。また、聞き返しの表現や示したいものの名前を尋ねたり、相手の意思を確認する表現など、コミュニケーションに必要な表現にも親しませる。

指導は、CD等を学習材として活用し、より自然により多くの発音の英語にふれさせたい。

4 単元の指導計画(15時間扱い)

活動	主な活動内容
オリエンテーション < 1 >	単元の見直しをもつ 異文化をもつ人々のビデオレターを視聴する
出会う交流 $\frac{1}{3}$ < $\frac{1}{3}$ >	異文化をもつ人々と交流する 交流をふり返る 次の交流でゲストに尋ねたいことを考える
英語に親しむ活動 < 全 4 >	互いに知り合う活動に必要な英語を知り、親しむ コミュニケーションに必要な表現に親しむ
< 1 >	・あいさつの表現に親しむ ・気分の聞き方・言い方の表現に親しむ
< 1 >	・相手の好きなもの・得意なものを尋ねる、自分の好きなもの・得意なものを伝える表現に親しむ
< 1 >	・相手の好きなもの・得意なものを尋ねる、自分の好きなもの・得意なものを伝える表現に加えて、もっているものの数を尋ねたり、伝えたりする表現に親しむ(数の言い方も)
< 1 >	・誕生日や年齢を尋ねたり、伝える表現に親しむ(月の言い方・曜日の言い方も)
< 1 >	・話しかけ方、別れ方の表現に親しむ
知り合う交流 $\frac{1}{3}$ < $\frac{1}{3}$ >	異文化をもつ人々と交流する 交流をふり返る 次の交流でゲストと一緒にしたいことを考える
英語に親しむ活動 < 全 4 >	共に活動するときを使う英語を知り、親しむ コミュニケーションに必要な表現に親しむ
< 1 >	・自己紹介・友達紹介の表現に親しむ ・相手に聞きたい情報を聞く表現・自分の伝えたい情報を伝える表現に親しむ
< 1 >	・学校施設の言い方に親しむ
< 1 >	・学校施設の言い方、案内の仕方・場所の尋ね方の表現に親しむ
< 1 >	・ゲームの紹介の仕方の表現に親しむ(順序・方向の言い方も)
共に活動する交流 $\frac{1}{3}$ < $\frac{2}{3}$ >	・異文化をもつ人々と交流する ・交流をふり返る ・異文化をもつ人と仲良しになれたかを考える
まとめ < 1 >	・単元全体のふり返りをする ・全体でふり返りの交流をする

印を示した活動の展開案を以下に示す

5 活動展開案

(1) 「出会う交流」展開案

ア ねらい

異文化をもつ人々と直接ふれあわせることで、相手への親しみを感じさせたり、相手への興味・関心をもたせたりして、コミュニケーションの動機付けを図る。

イ 展開案

	児童の活動 (T : 教師 G : ゲスト C : 児童)	支援及び留意点(準備物)
導入	<p>1 あいさつをする T: Hello everyone. C: Hello, (Mrs. Horiai) T: How are you? C: I'm fine ,thank you. (and you?) (T: I'm fine too, thank you.)</p> <p>2 ゲストをお迎えする</p>	<p>(ネームプレート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の始まりを意識させ、活動への弾みをもたせるために、教師から大きな声であいさつをする ・声の出し方や表情が望ましい児童を賞賛する <p>・ゲスト笑顔で入室してもらうよう話し、児童の緊張をほぐし、相手への興味・関心をもたせるようにする</p>
5		
展開	<p>3 異文化をもつ人々に歌のプレゼントをする 『Hello』</p> <p>4 異文化をもつ人々の自己紹介を聞く 名前 出身国 パーソナリティがでる情報</p> <p>5 異文化をもつ人々とゲームをする 『Hello,じゃんけん』 『ジェスチャーゲーム』</p> <p>6 異文化をもつ人々とお別れをする ゲストの感想</p>	<p>・ウォーミングアップとして行う</p> <p>・一回目は児童のみで歌い、二回目はゲストに児童の間に入ってもらい、児童の距離感を少しでも縮めさせる (CD)</p> <p>・自己紹介の中でパーソナリティ(得意なこと等)に関することを伝えてもらうように事前にゲストに確認しておく</p> <p>・聞き取ったことをメモさせる (補助シート)</p> <p>・出会った相手と「Hello」と言い合いじゃんけんをし、負けた方から自己紹介をし、相手の名前を聞くゲームをしながら、ゲストと直接ふれあわせ、相手への親しみを感じさせたり、相手への興味・関心をもたせたりさせる</p> <p>・伝えたいことをジェスチャーで表現するゲームをしながら、言葉以外でも伝え合いができることを感じさせる</p> <p>・交流に抵抗のある児童のそばで活動を見守り必要に応じて支援する</p> <p>・ゲストに簡単な英語で感想を言うってもらうようにする</p> <p>・児童にお礼(英語で)を述べさせ、ゲストを見送らせる</p>
40		
終末	<p>7 本時の活動を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流を振り返る ・次の活動で互いに知り合うために、聞きたいこと、伝えたいことを考えさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードに記入し、自己評価したりしながら、自分の活動を振り返らせる ・英語をコミュニケーションの道具・手段として意識させる ・活動の良さを取り上げ、次の活動意欲付けを図る ・もっと仲良くなるために、相手から何を聞いたかったか、自分が何を伝えたかったかを考えさせる (振り返りカード) (できるかもカード)
15		

(2) 「知り合う交流」展開案

ア ねらい

異文化をもつ人々と互いの理解を深めさせるために、親しんだ英語や動作など自分なりの表現を使ってふれあわせ、意志疎通によって得られるおもしろさや楽しさを実感させる。

イ 展開案

	児童の活動 (T : 教師 G : ゲスト C : 児童)	支援及び留意点(準備物)
導入	<p>1 あいさつをする T: Hello everyone. C: Hello, (Mrs. Horiai) G: Hello everyone. C: Hello, (Sosora) G: Hello everyone. C: Hello, (Karla) G: Hello everyone. C: Hello, (Kumo) G: Hello everyone. C: Hello, (Ben)</p> <p>2 全体でダンスをする 『マイムマイム』</p> <p>3 全体でゲームをする 『Simon Says』</p>	<p>(ネームプレート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の始まりを意識させ、活動への弾みをもたらすために、教師から大きな声であいさつをする ・ゲスト全員にも声をかけてもらい、児童の活動への期待感を高める ・声の出し方や表情が望ましい児童を賞賛する <p>(C D)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストと共に声を出したり、体を動かすことで児童の緊張を和らげたり、ゲストとの距離感を縮めさせる ・ゲストに Simon の係をしてもらい、児童の活動への意欲を高めさせる ・ゆっくりとしたペースで行わせる
10 展開	<p>4 グループに分かれて活動する</p> <p>(1) 『ご機嫌うかがいキャッチボール』をしながら、互いにあいさつをする</p> <p>(2) 親しんだ英語の表現を使って、聞きたいことを聞く。 ・聞き取ったことを友達と付き合わせて確認する ・聞き取れなかったことを再び質問する</p> <p>(3) グループ対抗でゲームをする 『伝言ゲーム』</p> <p>(4) グループごとに異文化をもつ人々とお別れをする ゲストの感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの児童とゲストを引き合わせる ・交流に抵抗のある児童のそば活動を見守り必要に応じて支援する ・児童とデモンストレーションをし、やり方の確認をする。 ・相手の名前を呼びながらボールを投げ、自己紹介し、相手の気分を聞いたり、ボールを受けて気分を伝えながら、あいさつをさせる ・聞き取ったことをメモさせる (補助シート) ・分からないことは聞き返すように、支援する ・活動の中で積極的に相手に働きかけている児童を賞賛する ・ゲストから質問をしてもらうように確認しておく <ul style="list-style-type: none"> ・教師の示したテーマをグループのメンバーで伝言していき、ゲストまで伝えさせ、グループ内の親交を深めさせる ・ゲストに簡単な英語で感想を言ってもらうようにする ・お礼(英語で)を述べてゲストをお見送りさせる ・ゲストの国の〔さよなら〕を教えるようにし、その言葉を使ってお別れさせる
35 終末	<p>6 本時の活動をふり返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流をふり返る ・次の交流で異文化の人と一緒にする活動を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードに記入し、自己評価したりしながら、自分の活動をふり返らせる ・活動の良さを取り上げ、次の活動意欲付けを図る ・もっと仲良くなるには、どんなことがしたいかというねらいから活動を考えさせる <p>(ふり返りカード) (できるかもカード)</p>
15		

(3) 「共に活動する交流」展開案

ア ねらい

異文化をもつ人と意志疎通を必要とする交流活動によって、コミュニケーションを図ることのおもしろさや楽しさを実感させる。

イ 展開案

	児童の活動 (T : 教師 G : ゲスト C : 児童)	支援及び留意点(準備物)
20	<p>1 グループごとにあいさつをする</p> <ul style="list-style-type: none"> 『パスポートコントロール』をしながら、一人一人がゲストとあいさつをする 	<p>(ネームプレート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストにグループの全ての児童と英語に親しむ活動で扱った表現を使って、1対1のコミュニケーションをしてもらう (パスポートカード) ・ゲストの問いに答えられない児童にはヒントを与えるなどの支援をする
70	<p>2 グループごとに決めた活動をする</p> <p>(1)校舎を巡りながら学校案内する</p> <p>(2)日本の遊びをゲストに教える</p> <p>【ソソラグループ】福笑い、双六</p> <p>【クモグループ】コマ、だるま落とし お手玉</p> <p>【カルラグループ】福笑い、あやとり</p> <p>(3)それぞれのゲストの国の遊びを教えてください</p> <p>【ソソラグループ】モンゴル式おはじき (シャガー)</p> <p>【クモグループ】中国式ドッチボール</p> <p>【カルラグループ】メキシコのおもちゃ (エスカレーター)</p> <p>3 グループ対抗でゲームをする</p> <p>『Lines ゲーム』</p> <p>“ I like ” レース</p> <p>4 全体でゲームをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴキブリゲーム <p>5 グループごとに異文化をもつ人々の感想を聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストの感想を聞く ・一人一人がお礼を言う 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の計画に従って、行動させる ・時間に留意することを確認する ・交流に抵抗をもつ児童のグループに寄り添い支援する ・言葉で表現できない部分は、自分なりの表現で伝えることを助言する ・ゲストにそれぞれの国のじゃんけんを教えてくださいのようにし、それを使って遊ばせる ・デモンストレーションをしながらゲームの説明を簡単にする ・グループごとに列を作って、正面に立つグループのゲストに向かって走っていき、自分の好きなものを素早く伝えるゲームをし、ゲストと一対一のふれあいをさせる ・他のグループのゲストともふれあう場を設定する ・同じ動物の相手を見つけて、今まで親しんだ表現を使って、会話した後、じゃんけんをして勝った方は進化する(負けた方はそのまま)ゲームをさせて、全体で交流させ楽しませる ・児童一人一人が、ゲストにお礼の気持ちを調べたそれぞれのゲストの国の〔ありがとう〕で伝えさせ、ゲストの国の〔さよなら〕でお別れをさせる
15	<p>6 本時の活動をふり返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流をふり返り、自分の活動をふり返る ・感想を書く 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードに記入し、自己評価したりしながら、自分の活動をふり返らせる ・異文化をもつ人と仲良しになれたかを考えさせ、そのわけを考えさせる ・伝え合いたいという心理的側面の大切さに気付かせる ・交流をしてよかったこと、考えたことをまとめさせる <p>(ふり返りカード)</p> <p>(できるかもカード)</p>

(4) 英語に親しむ活動 の第1時

- ア ねらい
互いに知り合う活動に必要な表現を知り、親しむ。
イ 展開案

	児童の活動 (T : 教師 C : 児童)	支援及び留意点(準備物)
開始前		入室時に全ての児童と前時に扱った会話表現を使って、一対一のコミュニケーションをする 教師が入国管理官として、児童に質問をし、児童が答えられたらパスポートにスタンプを押す『パスポートコントロール』をする (ごきげんパスポート)
導入	1 あいさつをする T: Hello everyone. C: Hello, (Mrs. Horiai) T: How are you? C:I'm fine, and you? T: I'm fine, thank you. T: How's wether today C: . T: What's the date today C: September. 16 T: What day is it today C: Thursday	<ul style="list-style-type: none"> 声を出すウォーミングアップとして行う 応答する児童が少ない場合は、日本語で確かめたり解説しながら行う 活動の始まりを意識させ、活動への弾みをもたせるために、教師から大きな声であいさつをする 声の出し方や表情が望ましい児童を賞賛する
5	2 歌を歌う 「Hello」	<ul style="list-style-type: none"> 歌いなれた歌で緊張をほぐすようにする 動作も付けさせ、楽しく歌わせる (CD)
展開	3 前時の復習をする (1)あいさつのしかた T:Hello, I'm Rika. C:Hello, I'm T: , nice to meet you. C:Nice to meet you, too. T:See you. C:See you. (2)ゲームをする 『One Minute Limit』	<ul style="list-style-type: none"> 入室時のパスポートコントロールで確実にできていた児童を指名し、デモンストレーションを行い確認する 1分間にあいさつのフレーズをできるだけ多くの友達と交わすゲームをさせ、表現に慣れさせる
35	4 本時の活動内容を把握する (1)気分の聞き方・気分の言い方 How are you? I'm _____ (great, good (fine), sleepy, tired hungry, full) (cold, hot, happy, angry, sad) (2)ゲームをする 『魔法使いゲーム』 (3)気分の言い方 I have a _____ (cold, fever, headache, stmachache) (4)ゲームをする 『ご機嫌うかがいいいキャッチボール』	<ul style="list-style-type: none"> 英語に抵抗のある児童に、全部覚えなくてもいいことを伝え、安心させる 表情や様子を描いたフラッシュカードを使って繰り返し、表現させ慣れさせる(フラッシュカード) 気分にあったジェスチャーを考えさせ、言葉と一緒に表現させる 教師が魔法使いとなり、魔法(気分を表す言葉)をかけると、児童はそのジェスチャーをするというゲームの中で、音声とジェスチャーを用い示すことで意味を自然にとらえさせる フラッシュカードを示しながら繰り返し表現させ慣れさせる (フラッシュカード) 友達や教師と会話する活動を取り入れ、表現に慣れ親しませる キャッチボールをしながら相手の気分を聞いたり、自分の気分を言ったりするゲームをさせる
5 終末	5 活動をふり返る ・自分の活動をふり返る 6 あいさつをする T: Good-by everyone. C: Good-by , (Mrs. Horiai) T: See you tommorow. C:See you.	<ul style="list-style-type: none"> カードに記入し、自己評価したりしながら、自分の活動をふり返らせる (ふり返りカード) (できるかもグラフ) 活動の締めくくりとして、教師から大きな声であいさつをする 声の出し方や表情が望ましい児童を賞賛する
5 終了後		退室時に本時に扱った会話表現を使って、一対一のコミュニケーションをする 児童が一番気に入った表現をハイタッチしながら教師に伝える『Good-by ハイタッチ』をする

(5) 英語に親しむ活動 の第2時

ア ねらい

コミュニケーションに必要な表現、共に活動する交流に必要な表現に親しむ。

イ 展開案

	児童の活動 (T : 教師 C : 児童)	支援及び留意点(準備物)
開始前		入室時に全ての児童と前時に扱った会話表現を使って、一対一のコミュニケーションをする 教師が入国管理官として、児童に質問をし、児童が答えられたらパスポートにスタンプを押す『パスポートコントロール』をする (ごきげんパスポート)
導入	1 あいさつをする T: Hello everyone. C: Hello, (Mrs. Horiai) T: How's wether today C: Fine. (rain, cloudy ...) T: What's the date today C: September. 21 5 T: What day is it today C: Tuesday.	・活動の始まりを意識させ、活動への弾みをもたせるために、教師から大きな声であいさつをする ・声の出し方や表情が望ましい児童を賞賛する
展開	3 前時の復習をする 『自己紹介・友達紹介ゲーム』 4 今日の課題把握 (1) コミュニケーションに必要な表現 What do you say in English? (2) 学校の施設の言い方 The first floor, The second floor, The third floor, gym, class room, library, nurse's office, computer room, music room, art room, science room, swimming pool, office, home making room, teacher's room, principal's room, broadcasting studio, restroom, entrance, etc. (3) ゲームをする 『One Minute Limit』	・実際のコミュニケーションの中で親しんだ表現を使わせ、ペアでお互いに自己紹介をし合い、情報を得た後で、他のペアに対し自分のパートナーを紹介するゲームをさせる ・話したい言葉やものの名前の表現が分からないときに使用することを知らせる の部分には言葉でなくてもジェスチャーや物を指し示しても聞けることも伝える ・以前に親しんだコミュニケーションに必要な表現についても適宜確認する。 ・英語に抵抗のある児童に、全部覚えなくてもいいことを伝え、安心させる ・学校の絵地図等を使って繰り返し表現させ、慣れさせる (校舎の絵地図)(学習プリント) ・絵地図を示しながら繰り返し表現させ慣れさせる ・プリントを使って、友達同士で指し示し、その場所の表現を言い合わせる ・1分間に学校施設の表現をできるだけ多くの友達と交わすゲームをさせ、表現に慣れさせる プリントを使い、指し示した場所の表現を言い合うゲームをさせる
35 終末	5 活動をふり返る ・自分の活動をふり返る 6 あいさつをする T: Good-by everyone. C: Good-by, (Mrs. Horiai) 5 T: See you tomorrow. C: See you.	・カードに記入し、自己評価したりしながら、自分の活動をふり返らせる (ふり返りカード) (できるかもグラフ) ・活動の締めくくりとして、教師から大きな声であいさつをする ・声の出し方や表情が望ましい児童を賞賛する
終了後		退室時に本時に扱った会話表現を使って、一対一のコミュニケーションをする 児童が一番気に入った表現をハイタッチしながら教師に伝える『Good-by ハイタッチ』をする